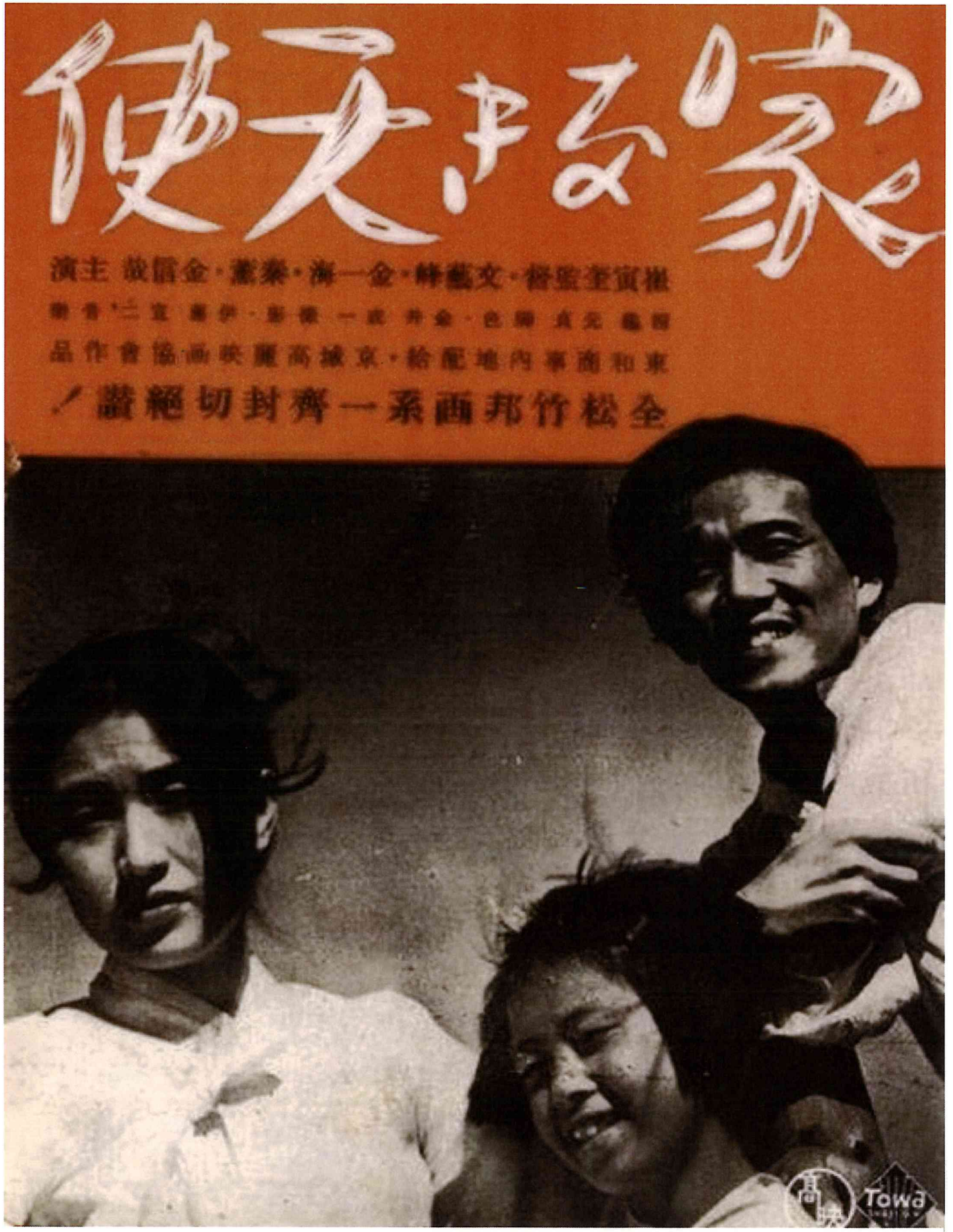


青丘文庫研究会 一映像を通して視るー
「まだ視ぬアーカイブを可視化する！」



2021年11月14日 13:00～ 在日韓国基督教会館(KCC 会館)
主催:青丘文庫研究会 神戸映画資料館 協力:韓国映像資料院

●青丘文庫研究会●資料集●2021年11月14日（日）●於／大阪KCC 会館

2021年11月14日発行

2021年11月18日改訂版発行

※水野直樹レシメ一部改訂／韓国映像資料院の資料欠落分を追加

2021年11月19日再改訂版

※一部重複、2部3部の資料の順番ミスを訂正

発行：青丘文庫研究会

〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22 神戸学生青年センター内

TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 e-mail hida@ksyc.jp（飛田）

近現代と在日朝鮮人

—占領期のフィルムを糸口にして—

1945年に朝鮮は「解放」を迎える。その後の在日朝鮮人社会を記録した一本の映像がある。その各シーンを切り取り、南北分断・国籍・教育をキーワードとして、近現代の日本と韓国・北朝鮮をとりまく動きや、その間で揺れ動く人びとの経験をみつめる。

原山 浩介

HARAYAMA Kosuke

本館研究部／日本現代史



写真2 文芸祭(1948年11月)のコマ。
分断された朝鮮半島の地図を見て悲しむ様子が演じられている。

写真1 列車から降りた建国学校の子どもたち(阪和線、杉本町駅)

はじめに

今日の朝鮮半島について私たちが思いをめぐらすとき、多くの場合、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国という、いわゆる「三八度線」で区切られた、国連に加盟する二つの国家が存在することを前提としている。しかしいうまでもなく、この分断が太古の昔からあったわけではない。両国は一九四八年にそれぞれ樹立、一九五〇年からの朝鮮戦争を経て、今日に至っている。

一九一〇年の韓国併合以降、日本が敗戦を迎える一九四五年に至るまで、朝鮮半島は日本の支配下に置かれた。そのため日本の敗戦は、朝鮮の人びとにとっては、植民地支配からの解放を意味した。しかしこの時、果たしてどれだけの人びとが、この「解放」からの数年間にわたって起こる、朝鮮半島の変化や、日本における朝鮮人の扱いについての変化を予測し得たのだろうか。

本館の第6展示室には、「解放後の在日朝鮮人社会——大阪・建国学校のフィルムより——」と題した映像がある。ここには、一九四五年の「解放」から、一九四八年の南北分断後までの、大阪の朝鮮人社会の様子が映し出されている。この、植民地支配と南北分断の、ごく短い狭間の映像は、朝鮮半島の近現代、日本と朝鮮(韓国・北朝鮮)の関係、そして在日朝鮮人について考える私たちの見方に揺さぶりをかける。ここでは、この映像を手がかりにしつつ、一九四五年から一九五二年の、いわゆる「占領期」に視点を置いて、日本と朝鮮半島をめぐって今日まで残る諸問題とも関わる、近現代の様相をみてみたい。



建国学校の名称は、植民地支配から脱した朝鮮の建国ないしは再建を意識したものだと推察できる。この映像を本館で公開するにあたり、編集に尽力をいただいた、建国学校の卒業生でもある高仁鳳氏の家族もまた、当初は「帰国」を念頭に置きながら日本で生活しており、実際、幼少の頃に一度「帰国」を果たしている。しかし、朝鮮戦争による後の混乱の中で、韓国から大阪へと再来日し、その後、二〇一二年に他界するまで、大阪で生涯を過ごした。

り、平等な国籍を有したとは言ひ難いとはいへ、朝鮮人は大日本帝国の、そして天皇の下に置かれたのは紛れもない事実である。

在日朝鮮人にとつての戦争終結からの数年間は、そうしたそれまでのいきさつの末に、祖国が南北分断により大きく変化する一方で、日本に住んでいるその足下も同時に大きく揺らぐという、激動の時間であつた。

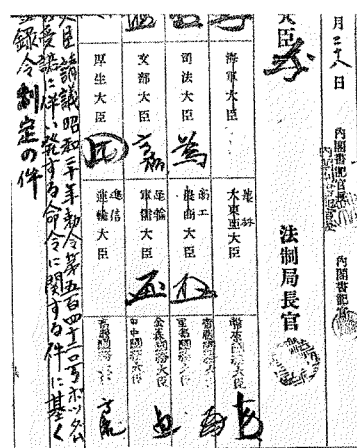
高仁鳳氏によれば、戦争が終わつてすぐに朝鮮

に戻つても生活の見通しが立たないと考えた朝鮮人たちは、当面の間、日本で帰国の準備をするつもりでいたのだという。この感覚は、全ての在日朝鮮人に即座に一般化することはできないとはいへ、當時を生きた人びとの一面を表している。

建国学校の映像には、学校の授業のシーンがある。本館で紹介しているもののなかでは、例えば、音楽の授業でハングル文字の歌詞が黒板に書かれているシーンや、子どもたちが書道の授業で書いたハングル文字がある。これは、祖国の文化を子どもたちに伝えるための教育として捉えることもできるが、他方で、いづれ帰国する時に備えて朝鮮語を学ぶという意味合いが少なからずある。

もっとも、あくまでも帰国を目指す朝鮮人の子どもたちへの教育を目指したのだとすれば、そのために作られる学校はあくまでも暫定的なものであり、将来にわたって長く学校を存続させようという話にはならないはずである。しかし、映像に現れる建国学校の校舎や備品は、モノが少ない当時としてはかなり充実している。明らかに、暫定的な営みを超え出る部分があるように見える。

筆者はこの両義性を、この時期に日本にいた朝



事件は五月二日以前に
公布して頂きたい。
法制局

「昭和二十年勅令第五百四十二号ポツダム宣言の
受諾に伴い発する命令に関する件に基く外国人
登録令を定める。文書の下に貼り付けられたメ
モ書きに注目。」
(JACAR(アジア歴史資料センター)
Ref. A13110819200、公文類聚・第七十一
編・昭和二十二年一月～五月・第四十六卷
(国立公文書館)

南北分断と在日朝鮮人

建国学校は、一九四六年三月に、「建国工業学校・建国高等女学校」として大阪市住吉区に創立した。日本の敗戦を迎えて、朝鮮人の事業家たちを中心として「白頭同志会」が結成され、朝鮮人の子どもたちへの教育を目的として作られたのがこの学校である。これが後に、白頭学院建国小・中・高等学校となり、幼稚園も併設して今日に至る。一九五一年に学校法人としての認可を受け、学校教育法一条校、つまり私立学校として運営されている。当初は南北に対して「独立系」の学校とされていたが、後に、韓国との結びつきを強めている。

映像には、学校設立前の会議の様、朝鮮人が日本で経営していた会社の様子、創立から間もない頃の学校の様子がまず収められている。さらに、朝鮮人中級学校との合同体育祭、一九四九年一月の建国中学校第二回文芸祭、そして一九四七年八月一日の「解放記念人民大会」と続く。

このうち、文芸祭では、南北に分断された朝鮮半島を見て悲しむ様子を演じるシーンがある。大韓民国の樹立が宣言されたのが一九四八年八月一日、朝鮮民主主義人民共和国は同年九月九日に建国されており、この演劇はそれから約四ヶ月後の上演ということになる。

これに対して、この南北分断の一年前、一九四七年八月一日に大阪市内で催された「解放記念人民大会」は、分断の悲しさなど全く予期できない、「解放」を祝う朝鮮人の様子が映し出されている。特に目をひくのが、道を行くパレードの底抜けの明るさである。そして、建国学校の生徒たちの姿も見える。一方で、朝連（在日本朝鮮人連



写真4 「解放記念人民大会」のパレードの様子。
行進しているのは建国学校の子どもたち。



写真3 1947年8月15日に「解放記念人民大会」が大阪の中之島で催された。
ポスターは同時に開催された相撲大会のもの。
この時は、韓国も北朝鮮も樹立されていない。

盟、後に朝鮮総連に発展）系の団体のマークを掲げた一団もある。ここに登場する人びとのなかには、南北が分断されること、そしてその後朝鮮戦争が起ることなど、想像すらしていない人びともいたことであろう。

在日朝鮮人の国籍問題

日本における在日朝鮮人の地位は、敗戦／解放から一九五二年四月二八日のサンフランシスコ平和条約発効までの間に、揺れ動いた。

一九四七年五月二日に、外国人登録令が公布・施行され、このなかで、在日朝鮮人は「二分の間、之れを外国人とみなす」とされた。この勅令は、五月三日の日本国憲法施行を前に出された、「最後の勅令」である。つまり、土壇場に出されたこの勅令により、在日朝鮮人は、国籍を日本に有しつつも、日本国憲法に謳われている「国民」の範疇の外に置かれたことになる。

さらに、サンフランシスコ平和条約の発効に先立つ一九五二年四月一九日の通達「平和条約の発効に伴う朝鮮人台湾人等に関する国籍及び戸籍事務の処理について」において、「朝鮮及び台湾は、条約の発効の日から日本国の領土から分離することとなるので、これに伴い、朝鮮人及び台湾人は、内地に在住している者を含めてすべて日本の国籍を喪失する」とされた。同条約の発効は、日本では占領期の終焉と独立の達成という、いわばお祝いごとであったのに対し、在日朝鮮人にとっては、国籍喪失の日にならなかつたわけである。

そもそも、韓国併合に際して、朝鮮人は日本の帝国臣民として扱われることとなった。この時、内地の日本人とは異なる扱いを受けた部分があ



写真7 建国学校の授業の様子。黒板にはハングル文字が書かれている。

おわりに

建国学校の映像を切り口としつつ、いささかそこからの逸脱をしながら、日本の占領期に視点を置いた形で、在日朝鮮人の置かれた状況を見てきた。占領期という節目は、日本による朝鮮半島支配、ならびにその終焉により生じた諸矛盾と、冷戦という世界的な展開の中に東アジアが置かれたことの問題、そしてそもそも日本における朝鮮／朝鮮人の扱いをめぐる矛盾が、凝縮されつつ姿を現す。

私たちはとかく、戦前―戦後という区切りの中で歴史を切り分けがちになるし、戦後〇〇年という形での時代感覚をしばしば共有する。しかし、そのきれいに切り分けられているかに見える時代というのは、鈍重な、割り切れない現実として一人ひとりの経験のなかでつながっており、それが後の諸問題とも深く連関している。

建国学校の映像は、そうした、切り分けられない経験の束を物語るものであり、前後の時代の具体性を考える上で立ち返るべき地点のひとつであると考えている。

〔参考文献〕

『建国…白頭学院創立60周年記念誌』白頭学院、二〇〇六
後藤光男「日本国憲法制定史における「日本国民」と「外国人」―米国の人権政策と日本政府との狭間で―」『比較法学』45(3)、早稲田大学、二〇一三

※写真はいずれも本館第6展示室の展示映像「解放後の在日朝鮮人社会 ―大阪・建国学校のフィルムより―」から。



写真9 吹奏楽の演奏。モノがない時代に立派な楽器がそろっている。



写真8 子どもたちのハングル文字の習字。

[建国 幻のフィルム物語]

<その1> 内容と解説

2005年9月、10期生の朴炳昭氏が学校から預かっていた荷物が建国校友会会の事務所に届けられました。古い段ボール箱からは昔の写真類とともに、学校の草創期を記録した貴重な16ミリフィルム7本(1946年〜1957年撮影)が出てきました。これらが「幻のフィルム」としてテレビや新聞報道等で大きな話題になったことは、記憶に新しいのではないのでしょうか。

映写機でフィルムを再現してみると、奪われた祖国の言葉や歴史を取り戻そうと、私たちが先輩たちが学校建設に情熱を注ぐ姿が見事に記録されています。60年経ったとはいへ、はつたつとした表情は色あせることなく、観る者に深い感動を与えてくれます。

そこで建国創立60周年を期に、この貴重なフィルムを後世に伝えていこうと、ドキュメント映画『幻のフィルムでつづる建国の60年』(30分)が製作されることになりました。編集前のフィルムとはどのようなものだったのか、フィルムにまつわるエピソード・解説等を交えながらご紹介しましょう。

お話を伺ったのは次の方々です。(敬称略)

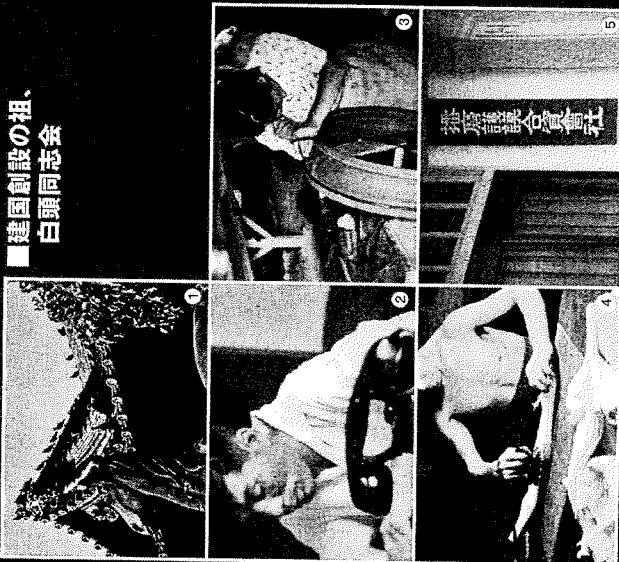
姜徳相(在日歴史博物館館長)、全永女(1期)・2期生のみなさん、

曹成鉉(7期)、高仁鳳(12期)

■建国創設の祖、白頭同志会

「冒頭に神社や塙が映っているんです。フィルムを撮影した人はどういうつもりで撮ったのか、わかりません。当時、このような撮影ができたこと自体、奇跡なんですよ。第一、フィルムが手に入りません。当時の日本では16ミリカメラもフィルムも作っていませんでした。米軍からのものではないかと思いますがね」①

「白頭学院の初代理事長、曹圭訓氏です。当時、精進建設合資会社や紡績工場など手広く事業を手がけておられました。ここで働いているのは皆同僚です。戦争末期、徴用で日本に連れて来られ、解放後行き場を失った朝鮮人を曹理事長が引き受けたと聞いています」②③④⑤



[建国 幻のフィルム物語] <その1>



「工場見学に行ったとき、靴をもらいましたよ」⑥

「レコード工場では、白頭レコードの袋詰めをしています。小畑実が歌っていますね」⑦⑧⑨

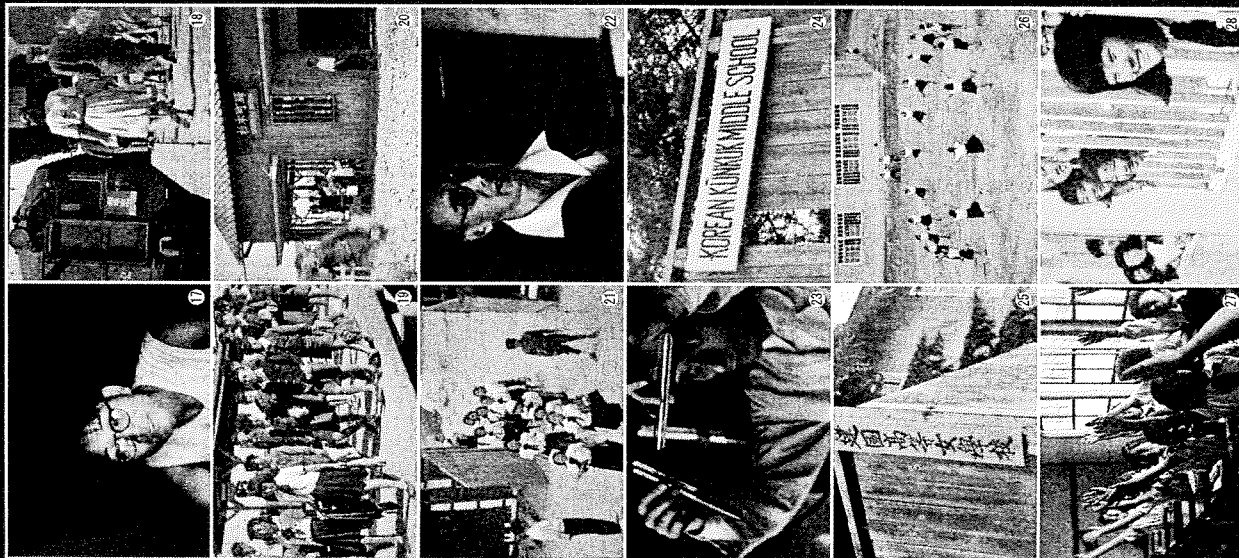
「白頭同志会の会合は曹理事長の事務所の2階で行われていました」⑩⑪

「土に埋めた木樁旗を掘り出して掲げているようにも映っています。これは明らかに撮影のためにやっていますね(笑)」⑫

「日章旗の上から木樁旗を描いてつくったものですね」⑬

白頭同志会の宣誓文
「祖国の産業と文化建設のために在日青年は合意し、鮮血を流し固く誓い、われわれは白頭同志会を組織した」⑭

「李慶泰校長の妹の夫が曹圭訓理事長の製材所の責任者でした。西宮にある李校長の家が空襲で焼けたため、妹を頼って製材所の2階に住んでおられたそうです。李校長は関西大学法文学部出身の教育者で、このときの出会いが建国学校を作るスタートになりました」⑮⑯



■建国生の一、1946年

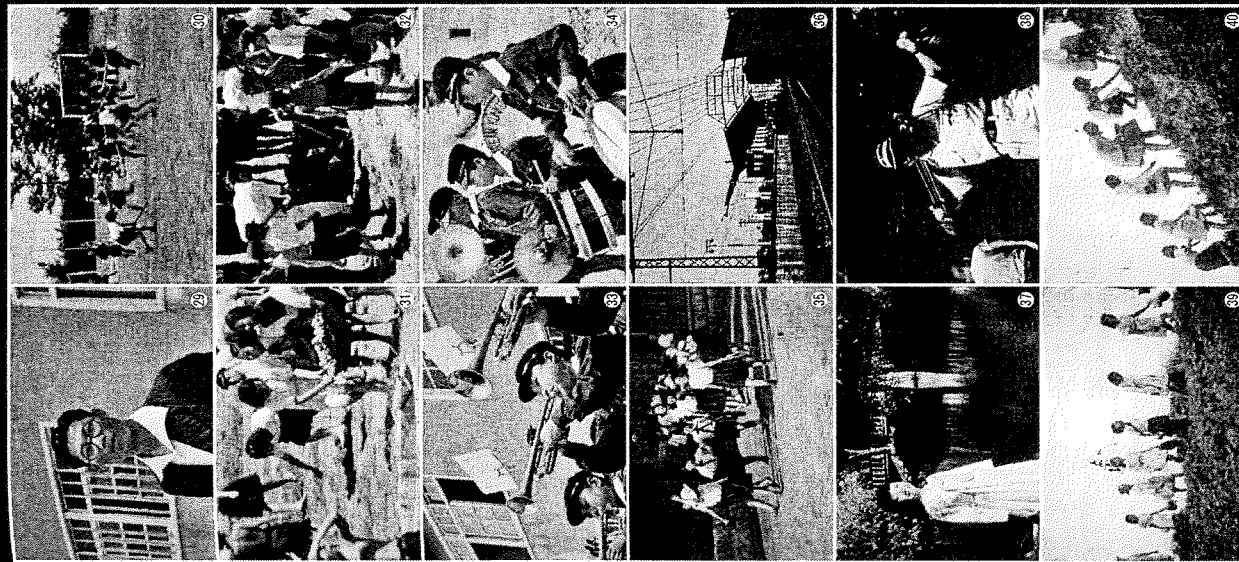
【この部分は朝鮮建国中学校の一日として、梁健熙先生が撮影したといわれています】⑩

【朝の登校風景は、阪和線の杉本町のホームから始まります】⑪⑫⑬

【当時の制服は、イギリス人のS.TUKE先生の発案で、英国風のおしゃれなデザインになったそうです。このころ、民族学校で制服があったのは建国だけでした。】⑭⑮

【化学の坂手邦夫先生です。坂手先生の授業を受けて勉強が好きになり、その後数学の教師になったのが、現在の全永女先生ですよ。】⑯⑰

【私が感銘を受けたのは、曹理事長は、女性も子どもを教育するのだから、まず女性に教育をしなければならぬというお考えだったそうです。それで、建国女学校がいち早く出来たのです。当時としては画期的なことですね。この頃から女生徒のスポーツ活動も盛んでした。】⑱⑲⑳㉑



【ホッケーの監督、安吉保先生です。のちに天理大学に転勤され、日韓辞典を編纂されました。安先生が天理大に移ってから、天理のホッケーが有名になったんです】㉒㉓

【みんなでグラウンド整備をしています。また学校の周辺は畑でした。周りの畑からトマトやキュウリを食べて、お百姓さんから追いかける男子がいましたよ。あの頃はお弁当を持ってくるのができる生徒が半分ほどでしたからね。アメリカ人が道路（テニスコートの横）でチョコチョコも菓子（を）くれるんですが、嬉しさと悲しさの半分でした】㉔㉕

【行事があるとクラスバンドが先頭に立って行進しました。女生徒は小太鼓とビリを担当しました。私は制服が買えず、母のチマを染色してスカートに仕立て直したんですよ】㉖㉗

【下校の様子です。朝と同じく、杉本町駅の風景で一日が終わるというストーリーになっていますね】㉘㉙

■校外学習を楽しむ 建中学生

【遠足風景です。真面の滝のような風景が映っています】㉚㉛

【梁健熙先生は新聞に学校の様子を紹介するため、学生を連れて遠足に行きました。これは大和川ですね】㉜㉝

■ 社会活動にも 貢献した建中

「1947年8月15日、中之島中央公会堂（大阪市北区）で開催された、解放2周年記念行事の記録です。建物の上からピラをまいたり、新聞を記するなど活気に溢れています。建中生も揃って参加していますね、さまざまな民族団体がブラカードを持ち、行進しています」⑩⑪

「印象に残るのは、大槌旗の下に朝青の旗がなびていることです」⑫⑬

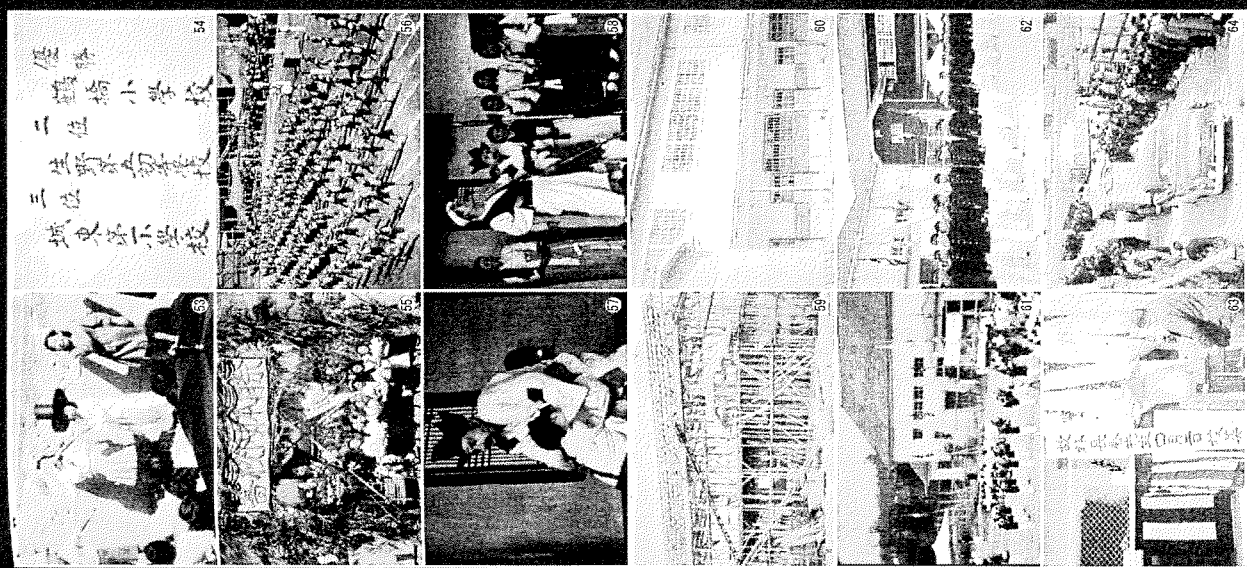
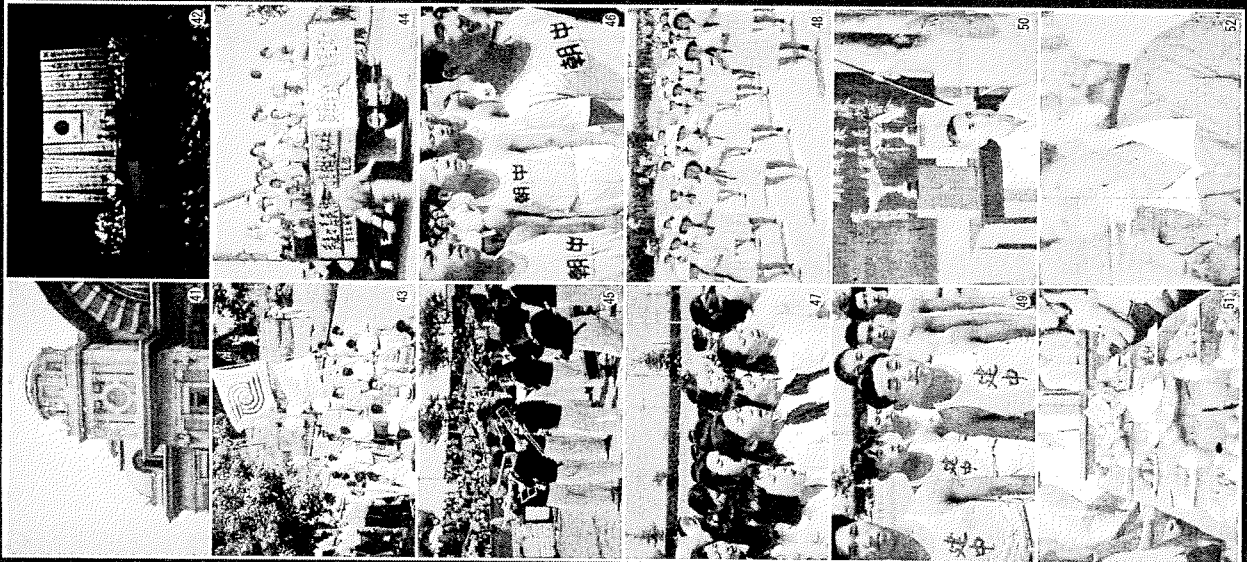
■ 当時からスポーツも盛んでした

「1947年に行われた第1回解放記念陸上競技大会です。場所では中野のグラウンド（大阪府堺市）です。建中や朝中、ほかの民族学校も参加しました。ここでも建中のブラバンドが演奏していますが、戦後すぐの時期によくもこれだけ楽器が揃ったなど感心します」⑭⑮⑯

「私は小太鼓を担当しました。短時間ですごく練習しましたよ」⑰

「戦後2年ながら、たくましい体格です。映っている生徒は当時20歳で、あだ名が“アボジ”（笑）。結婚していた生徒がいたり、先生より年上がいり（笑）。当時は様々な事情があったので、少々年齢がずれていても生徒を受け入れてくれたんですね」⑱

「この年の陸上競技大会の優勝は建中です。このときはまだ大槌旗が掲げられていました。優勝祝勝会を学校で行ったようですが、スイカやぶどう、おにぎりを食べています」⑲⑳㉑



「建中主催の第2回招待陸上大会（1947年10月28日）です。1位は鶴橋小学校、2位は生野第五初等学校、3位は城東第一小学校でした」㉒㉓

「校内体育祭と第3回体育祭が行なわれた様子です」㉔㉕

■ 熱心な文芸発表

「建中第2回文芸祭舞台で、1948年11月1日に行われました。沈清雲の演劇をしています。場所は大手前会館。当時は観客がなかったので、これを楽しみにする同胞が多く、こちらからの会館で遊覧されました。中学生とは思えないほどの迫り方ですね（笑）」㉖㉗

「木造校舎建設中のもようです。ここで1979年まで学びました」㉘㉙

「1958年に行なわれた校内体育祭のもようです。私たちが学んだ校舎が映っています」㉚㉛

■ 哀悼の意を込めて

「林長春（林哲）先生が学校で亡くなられ、学校葬が行われたようです。たくさんの方々が参列しています。音楽隊を先頭に、学校の周囲を2周ほど回ったそうです」㉜㉝

『建国 幻のフィルム物語』

＜その2＞ドキュメント映画のできるまで

高 仁 鳳 (12期生)

建国創立60周年を2006年に迎えるこの時期に、学校草創期の様子を撮影した貴重なフィルムが発見されたのは、建国にとって絶妙のタイミングであった。特に2005年は第2次世界大戦後60年、また私たちにあっては、光復60周年にあたり、日本や韓国のマスコミ、在日社会においても当時の記憶がうすれ、歴史を語り継ぐ必要性が痛感されていた。

このような時に、解放後いち早く在日同胞の民族教育のために開校した、建国の姿を伝える記録フィルムは、建国だけでなく、在日社会、広くは日本社会・韓国社会にとっても貴重な歴史の財産ともいえるべきものではないだろうか。

1. 「幻のフィルム」原版の内容

見つかったフィルムは、16ミリフィルムが7本、8ミリフィルムは8本。16ミリは約1時間、8ミリも併せると全部で3時間ほどに相当する。デジタルビデオに変換して判明した16ミリフィルムの内容は、1946年の建国草創期のものが中心で、あと1956年頃の体育祭の模様、朴長春（朴哲）先生の



葬儀の模様が最後だ。もう少し詳しく内容に沿って、中身を見てみる。

まず16ミリのケースに、「建国生の一、1946年」とあるのは、天王寺から阪和線に乗って、杉本町駅に降りる学生の姿から、授業風景、運動場を整備する姿などが映っていて、最後には杉本町駅から帰途につくストーリーになっている。ただ撮影したただけでなく、編集したと見られる。映像に心のあたる人がこの撮影に関わったに違いない。

そこには、創立まもない建国生の姿がいきいきと映し出されているのである。特に学校建設のため、運動場の整備を生徒自身がスコップなどを持って作業している姿が映っている。このことは先輩たちから話では聞いていたが、それが見えたと映像で描かれているのを見ると、感動を覚える。

つぎのケースには、「解放2周年記念行事」「第1回朝鮮陸上競技(連中)」とあった。

これは、1947年8月15日の第2回解放記念式典が大阪中之島中央公会堂で行われた様子だ。GHQがジープに乗って見回す姿や、喜びにあふれる同胞たちの姿。建国生はきりりとした制服姿でプラスチック（離波橋）頭に中之島のいわゆるライオン橋（離波橋）をバックに、行進をする姿が映っている。

「第1回朝鮮陸上競技」は朝鮮人連盟の主催で、建国中学を始め、朝鮮中学などが中百舌島運動場で行われた体育祭の模様だ。

『建国 幻のフィルム物語』＜その2＞

つぎはケースに描かれていないが、映像の中にこのようなタイトルがあった。「朝鮮建国中学校第3回秋期体育大会・第2回文芸祭、1948年11月1日」。体育祭と文芸祭が同じ日に行われたとは思われないが…。

それと、この中にホッケー大会があった。審判を安吉保先生と金時習先輩が行っている姿で、観客がすごく多い。どうやら、この大会は日本ではなく韓国で行われた映像ではないかと思われる。これはホッケーをよく知っている先輩に聞かないと確認できない。

校内体育祭の模様は楽しい雰囲気だ。仮装行列の模様もある。文芸祭は、大手前会館で行われたもので、沈清伝の劇をしている。観客もたくさん観ているのがわかる。このときにはすでに祖国が38度線で分断され、その模様もみてとれる。

播磨工業の工場で動く風景が写っている。ゴム工場で動く様子だ。若い男女が働いている。ゴムだけでなく、糊紙やなにか薬品工場、事務所の風景などもあった。

白頭レコードと、レコードの吹き込み場面や製作する風景もあった。歌手小畑実さんの吹き込みの模様もあった。

団結・建設という見出しで始まる「白頭同志会」の会議の模様が映った。場所は海辺が近いのか海の景色がよく映っている。白頭学院を創設したのは、この「白頭同志会」だ。

ここまでは16ミリフィルム4本だ。

5本目から7本の最後まででは、「第2回招待陸上競技大会、1947年10月28日」がある。市岡運動場で行われた様子だ。にぎやかに応援する様子やチマ・チヨゴリ姿で走る模様もあった。小さな子どもから背広姿で走

る姿まで楽しい雰囲気だ。あと、本造校舎を建てる風景が映っていた。この校舎は私たちも中学高校卒業するまで学んだ教室だ。

船がよく出てくる。初代理事長の長男青成鉸先輩の話によると、船は14隻あったという。そして、播磨工業のときの運動場のようだが、サッカー試合の様子がよく映っている。それには李初代校長や朴燦時先生なども映っている。

白頭同志会の青年たちだろうか、祖国解放を喜び、隠していた太極旗を振ってバンザイを叫ぶ場面や、目の丸をおろし太極旗をあげる場面もあった。

1956年の体育祭の模様だ。これには高校生の建国行進の様子が映っている。

最後に1957年4月2日の朴哲（朴長春）先生の葬式の模様だ。全校生が参加して、盛大に行われた。

8ミリフィルムの中身は16ミリフィルムから後の時期のもので、李承徳先生が撮ったものと、朴炳昭先輩（10期生）が撮ったものがある。

朴炳昭先輩が撮ったものは、40周年記念体育祭や御堂筋パレードの模様、このときは1988年ソウルオリンピックのPRのため建国生は多数パレードに出た。林間学舎のプールで泳ぐ場面もある。

李承徳先生が撮ったもののうち、第35



④製作過程においては、聞き取り・音楽・ナレーションなど建国関係者・卒業生が担当することになった。

⑤目的の第1は、60周年記念式典にて上映すること。第2は、DVDを製作し、60周年記念誌に挿み込んで配布する。それには、韓国語版も制作する。

⑥白頭学院建国学校を在日社会・日本社会・本国社会に広く知らしめるために役立てる。

1978年12月27日撮影の木造校舎を中心

に学校の様子を撮影した映像は、李承徳先生が撮ったもの。第17回校内音楽会という映像があった。音楽会といっても、舞踊もあれば、劇などもあり、文化祭のようなものだ。そういえば私がいたときも音楽会があったな。

1963年18回体育祭と文芸祭の様子。これには撮影したのは李承徳先生と記録されている。もちろん、学校内で行われている。

以上が「幻のフィルム」の概略である。これら記録映像を建国生だけでなく、在日同胞、日本人々、また本国の人たちにも見せるようにしたい。

そのために、理事会においてドキュメント映画を製作することになった。

2.「幻のフィルムでつづる建国の60年」製作編集方針

- ①発見されたフィルムの内容を明らかにし、関係者の証言を集める。
- ②現在の建国学校の様子を盛り込む。在校生の授業風景やクラブ活動の練習風景なども織り込む。また、活躍している卒業生を取材する。
- ③テーマを「建国の過去・現在・未来」とする。

慶泰初代校長夫人)、全永女先生、裴今漢先輩、金性玉先輩に来ていただき、KBSまだんで試写会を行う。金順玉校友会事務局員の協力を得て、内容の聞き取り取材を始める。

●10月14日、岩手在住の2期(1期とも)李守根先輩に、『白友』取材を兼ねてフィルムについての聞き取りをする。

●10月17日、東京関東方面の先輩達を取



材のため東京へ。曹圭訓初代理事長の長男で7期の曹成欽先輩と連絡は取れたが、先輩が足をケガしたため、このときは会うことができなかった。

●10月17日、統一日報に記事が掲載される。

●10月26日、創立60周年記念事業実行委員会の財務委員会が開かれ、フィルムに

関して報告および上映。

●10月27日、読売新聞の取材を受ける。

●10月28日、民団新聞と統一日報へ発表。

●10月29日、読売新聞夕刊全国版に記事が載る。

●10月29日、毎日新聞の取材を受ける。

●11月1日、『白友』取材を兼ねて北海道在住の金良基先輩(5期)の取材へ行く。

●11月4日、韓国CBS放送が金賢太郎会長を取材。

●11月7日、CBS放送、李英秀理事長、金

基周副理事長、金賢太郎校友会会長、鄭和枝PTA連合会会長の収録をする。この

日、朝から建国の現在の授業風景を収録する。

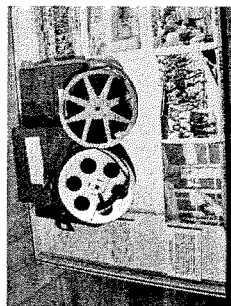
●11月9日、民団新聞に記事が掲載される。

●11月11日、韓国CBS放送取材陣と食事会。このとき、李英秀理事長、金賢太郎実行委員長の許可を得て、フィルム一部データをCBSへ渡す。

●11月14日、民団中央本部の「在日歴史資料館」へ特別展示のため、16ミリオリジナルフィルム3巻を、李英秀理事長、金

実行委員長の許可を得て貸し出しする。2006年2月までの予定。11月23日の開館時にはスチール写真と共に展示される。

●11月20日、1・2期生の同窓会があり上



映。参加した先輩達から聞き取り・コメントを収録。NHKテレビが取材、21日の朝、関西向けニュース、昼には全国向けニュースで放送される。

●11月25日、読売ザ・kansai CS放送が取

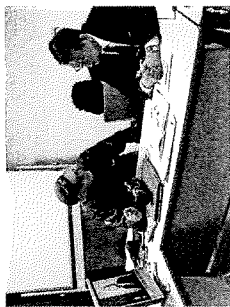


材。

●11月29日、7期の曹成欽先輩を取材。こ

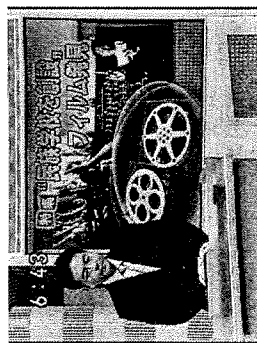
の模様をNHKテレビが取材。関東地方の校友生のためフィルム上映会を行う。参加者15人。世話人・幹事に12期の張文煥さんが指名される。

- 12月4日、8期同窓会で、10分ぐらいい



編集されたものを上映。

- 12月8日、NHKテレビが学校にて李正市校長他を取材。
- 12月10日、李奇泰さん(李慶泰校長の妹、曹主訓理事長に李校長を紹介した当時の製材会社責任者、金鎮沢氏の夫人)を取材。
- フィルム撮影者のひとり、梁健熙先生の娘、梁恵順さんとフィルムを見ながら梁先生について取材。
- 12月13日、在日歴史資料館館長の姜徳相先生にフィルムを観てもらい取材。その様子をNHKテレビが取材。
- 12月22日、NHKテレビニュースにて報道される。



〈2006年〉

- 1月1日、韓国CBS放送テレビの特集番組で報道される。
- 2月4日、梁永厚氏(元朝鮮学校校長)、姜在彦氏(花岡大学教授)、建国の元事務局長呉辰成氏を招いてフィルム上映会を行った。当時の歴史的な背景や様子について聞く。



- 2月23日、ナレーションを卒業生の郭允美さん(52期生)に頼むことになった。
- 3月3日、建国小学校6年生の在日社会歴史の授業でフィルム上映。感想文を書いてもらう。子どもたちの反応に驚いた。
- 3月6日、廉命任先生を取材。この模様をNHKも取材。



- 3月10日、「建国幻のフィルム」暫定版を取材用に作成。
- 3月13～16日、韓国へ取材。社会で活躍している先輩達を取材。延世大学の趙江來(5期)、KAISTの金容海(8期)、宋智浩(15期)の各先輩にインタビュー取

録。

- 3月15日、ソウルで在韓国建国校友生のつどい開催。「建国幻のフィルム」暫定版上映。この時、韓国支部校友会の結成がされ、会長に趙江來先輩(5期)、事務局長に鄭景文さん(12期)が選ばれる。NHKテレビが韓国に同行取材。



- 3月17日、韓国YTNテレビの取材を受ける。(東京)
- 3月18日、関東地区建国校友会が再結成され、同時に「建国幻のフィルム」暫定版上映会を行う。会長に12期の張文煥さんが選出される。



- 4月3日、理事長離就任式に出席。伝統芸術部の舞踊などを撮影。
- 4月7日、入学式に参加。吹奏楽部、ブシムルノリなどを撮影。
- 4月15日、吹奏楽部の定期演奏会の模様を収録。
- 4月19日、活躍している卒業生として元

小学生の感想文紹介

○私は建国が創立した当時のビデオをみてとても感動しました。ビデオをみて昔の建国の様子がよくわかりました。このビデオをたくさんの人にみてほしいと思います。そしてこのビデオを通して建国を誇らしく思いました。民族学校に通っていることを自覚し、これからは自分が韓国人であることを忘れないで生きていこうと思いました。このビデオをみせるために学校まできていただいた方に感謝しています。

○私がこのビデオをみて一番おどろいたのは建国が祖国が解放されてすぐに韓国人自身の手でたてたということでした。日本から解放されてまずいいながらもうれしそうな人々の授業の様子がとても印象的で昔の建国生の愛国心が感じられました。これからの建国生として私たちが昔にまけない愛国心を守ってきたいです。

○建国は自らの手で作られた学校。日本で初めて作られた韓国人学校。私はこれを知って誇りに思いました。この学校にいる私がすごいなと思いました。(中略)ほんとうに自分が建国の生徒であってうれいいます。これから建国の生徒としてがんばりたいです。

○自分たちで運動場を作っている姿や、登下校している様子をみました。日本に植民地にされて苦しめられた悲しみなどはあまりなく、みんな笑顔いっぱいでした。

○私がすごくびっくりしたところは田んぼを運動場にしたら、日の丸をぬりつぶして太極旗を作ったことです。

○制服がかわいかったです。

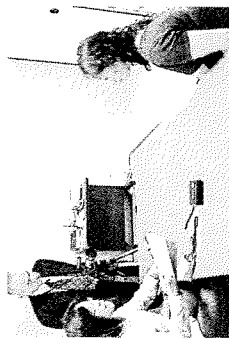
○建国が日本初の韓国の学校だったことが、ほこりにおもえます。

らしい出来ばえ。また、郭允美さんのナレーションの録音テスト。これも、まともってきた。

- 解放2周年バレード、復興始まった街 克明に
 アイルランド 本橋 邦子
 新橋 邦子
- 終戦直後の映像
- 旗学校



集会で、暫定版を試写上映。
多くの参加者が「建国学校を知らない」という反応に驚いた。もっと知らせねばならないと感ずる。



- 5月31日、創立60周年記念式当日だ。建
国中学校生の記念式典に先立って小學生の
ため上映。反応はとてよよかった。10時
から講堂で記念式典が始まり、今度は中
高生のため上映。これまた熱心に観てい
た。午後3時から帝國ホテル大阪で、一
般向けの記念式典が始まった。ここで
上映、観客から大歓声が起こる。大拍
手、そして皆さんから「よかった!」と
いう感激の声をもらい私は人満足。姜尚
中先生の講演にも、フィルムを引用して
の話があった。

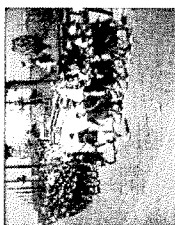


「幻のフィルム」を伝えるマスコミ各紙



終戦直後の映像

解放2周年パレード、復興始まった街 克明に



2005年10月29日
 読売新聞夕刊

草創期のフィルムを発見

撮影者や映像確認作業急ぐ

[illegible]

統一日報
2005年10月19日

建国学校

[illegible][illegible]

生き証人探し
証言聞き取り

創立60周年に向け編集作業急ぐ

[illegible]

蘇った草創期
在日史の宝に

【文】 2011年10月1日、東京・有明コロシアムで、第1回「東京国際学生音楽コンクール」が開催された。このコンクールは、毎年世界各国から優秀な学生が参加し、音楽の分野で国際的な交流を促進することを目的として行われている。今年も多くの学生が参加し、素晴らしい演奏を聴くことができた。特に、日本の学生たちの演奏は、その技術と表現力から高く評価された。このコンクールを通じて、音楽の力で世界を繋ぐことができたことは、とても意義深いと思う。

民國新聞 2005年11月9日

2008年10月19日(水曜日)

OF THE YEAR 1999

▼一人の社会活動家として

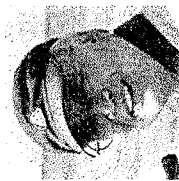
金剛保険では二年間、仕事をしました。わたしは与えられた仕事は、どこの現場に行っても一生懸命やったと思います。そして八八年に、ソウル・オリンピックに際して朝鮮労働党に嘆願書を出しました。

しかしその後、総連から除名されました。嘆願書がにらまれたのでしょう。反論する機会も与えられませんでした。除名の宣告を受けたときの絶望感は言葉に尽くせません。自分のそれまでの五五年間は何だったのかと自問する、つらい日々が続きました。しかし、今では総連という場で同胞のため懸命に活動したのは、無駄ではなかったと思っています。

世界の冷戦構造の変化は、在日朝鮮人の運動にも影響がありましたが、北の経済が下降しているのが歴然としてきた。そうしたなかで、総連を離れた人は多い。しかしわたしは総連から除名後に在日同胞親睦会で活動することになりました。わたしの仕事は何も変わっていない。活動の場が移っただけで、在日のために尽くすという仕事は何も変わらないと思っています。

52 「幻のフィルム」を蘇らせた記録者

高仁鳳 (コウ・インボン) 男



取材日／二〇〇七年二月一三日、三月一日 本籍／ソウル市永登浦区 現住所／大阪市 生年月日／一九四一年五月一日 略歴／大阪で生まれ、四七年に全羅北道裡里市に移住。五七年、日本に渡り、白頭学院建国中学校、高校卒業。プラスチック関連業界紙の仕事をしながら大阪経済大学経営学部夜間に通う。六八年、印刷会社橋文社を継承。八九年、ケイビーエス株式会社に改組し代表取締役となり、現在取締役会長。白頭学院建国学校理事、校友会副会長。二〇〇五年、戦争直後の建国学校草創期の模様が撮影された「幻のフィルム」の映像をもとに建国創立六〇周年記念事業としてドキュメンタリー映画を製作。取材／姜志鮮 原稿執筆／姜志鮮

▼幼いころの一時帰国

わたしは一九四一年五月一日に大阪で生まれたけど、四七年に母と九歳上の兄・仁守(インス)と一緒に韓国全羅北道裡里市(現・益山市)に渡りました。父は済州道で生まれ、二〇歳ごろから日本に来て、結婚して住んでいました。父は商売をやって小金を持っていたので、あのときはお金を持って帰れなかったから、そのまま日本に残って。終戦直後は皆早く帰ろう

と急いでいたし、子どもらは学校に行かなければならないから、三人を早く行かして、父は後で整理できたら帰ろうとしたわけです。

それが、一九五〇年に朝鮮戦争が起こって、若者みんな軍隊に引っ張られました。わたしは裡里中央小学校一年、兄は中学三年に入ったんですが、兄は高校一年のとき、兵隊に引っ張られて、母とわたしの二人だけ残ってしまいました。お母さん、いろいろ苦労したと思いますね。病気になって一九五二年に亡くなりました。

父からは五三年二月一〇日に、別れて七年ぶりに、兄宛に「もうちょっと安定してから日本に来なさい」という手紙が来ました。ぼくはソウル中区の散髪屋に住み込みで働いていました。小学校三年から。そしたら兄が「お前は学校に行かなければならない」といって、父と連絡を取って、「お父さんのところに戻りなさい」といったから、日本に戻ったんです。五七年五月一日にソウルから出発して、大阪に着いたのが七月三日でした。一人で密航やな。でも楽しかったよ。

▼白頭学院建国学校での生活

父は大阪でパンの配達をしていて、「高山」という通名を名乗っていました。もちろん朝鮮人はみんな通名を使っていた時代だからね。でもわたしは「高」という本名を使い、「高山」は使わなかった。それが普通だと思ってね。ぼくが日本に来るまで、父は民団も知らないし、

付き合いがないのよ。ぼくが来て民団を教えました。パスポート作って、それから韓国行って、故郷の済州道にも行って。懐かしいから、「死んだら自分をそこに埋めてくれ」となったわけだから。今は済州道に父と母の墓があります。

日本に来て建国中学校二年に入りましたが、それまで約六年間学校に行ってませんでした。だから小学校三年生から中学校二年生の間、ブランクがあって。

あのときぼくは学校に行かんあかんと思って、父に話して、朝鮮学校を探していったら、朝鮮総連(総連)の中学だから金日成(キム・イルソン)元帥の写真が掲げてあって。変だな、日本には韓国系の学校はないかな。それで父が誰かに聞いて、「建国学校は韓国の学校みたいよ」って。

でも建国に行くと金日成の写真もなければ、人民共和国の旗もないから、「ここは韓国の旗なんだろうな」と思って入ったんです。でも全然、わからない。隣に座っている子に「おい、この旗はいったいどんな旗やねん」と聞いたら、「え？ 太極旗運うか」って。ぼくの太極旗に関するこだわり。ある意味では意識が強かったともいえますね。韓国から来て、どうしても太極旗がある学校に入りたいということで建国学校に入ったのに、太極旗がある学校じゃなかった。国旗がない学校でした。

終戦後、間もなく南北両方の国ができて、それから建国ではいつさい旗を揚げなかった。というのは、祖国というのは全体が祖国であって、韓国だけ、あるいは北朝鮮だけではないという、どちらかに決めつけない教育方針でした。一九七二年ごろ、この理念が変わって、その後

は韓国系の学校になっていますけどね。建国の教育は、別に押し付けなくて、要するに自由に教育は自主なんです。だから選ぶのは自分で選ぶ。共産主義思想を持ってもかまわない。そこが建国の素晴らしいところでした。

建国高校のときは新聞部に入ったけど、これがむちゃくちゃ面白い。私学高校新聞連盟のコンクールに出したりして、入選しました。それがものすごく楽しかった。今もいつもビデオカメラ持って、何かニュース的なことがあったら、撮ったりするわけですけどね。

▼就職、大学進学、そして結婚

でも、高校を卒業してからは就職せねばならないから、ぼくらが作った建国新聞を持って就職活動をし、サラリーマンになりました。プラスチックの業界紙を作るところに。一〇ヶ所以上回ったけど、履歴書は本名やから、ほかのところは全部だめだったんですが、就職できた会社の社長がえらい人でね。ぼくが「親父が使っている日本名がありますから、通名でしましょうか」と聞くと、社長は「何やね。お前、本名あるのにそれを使ったらいい。なんで通名使うん。本名使っていよいよ」といつてくれました。

その新聞社に入った一年後に大学に入りました。昼間はその新聞社で働きながら。社長にいったんです。「ぼく、大学に行きます。夜間に」。そのとき夜間大学に行くためには四時半には仕事を終えなければいけなかった。しかし新聞社というのは夜遅くまで働いています。社長が

「お前がもし日本人だったら、わたしは許さなかったけど、お前はこれから在日同胞を背負っていくべき人間やから許す」って。こんなことで大学に行けたんです。大阪経済大学。

大学に通いながら、今の妻と教会で出会い、付き合いました。そのときは大阪教会に通っていました。教会の組織の中に関西連合会という青年会があって、よその教会からも来て大阪教会で聖歌隊の練習をしていました。たびたび彼女が来ていたから、「お！ かわいいな」って。それで付き合って一九六七年に結婚しました。

結婚した年にぼくは僑文社に入りました。もちろん就職していたところもすごく楽しかったんですけど、将来は出版社をやりたいからとやめたんです。僑文社というのは印刷会社で、そのときは前の社長がしていました。

在日大韓基督教会が福音新聞を出すために作った会社でした。会社といっても、西成区にある教会の裏庭の小さな九坪の工場で作ってたんですけど。そのとき社長は同時に民団の文教部長をやっていて、印刷の仕事には身が入らなかった。それでぼくに「あと継がんか。これ買わないか」といつてくれた。「それじゃ、ぼくが買います」。妻にも話したら、「それじゃやりましょうか」って。

わたしはあまり印刷の専門じゃないし、妻だって専門じゃない。職人一人雇って始めたわけね。韓国語の活版印刷の設備と機械一台ありました。ところが、一九六九年に西成教会が教会を建て直すことになり、出て行かなければならなかった。もともと建物・土地の権利はなかつ

たので何の保障もなかった。生野^{いくの}区桃谷の父の家を工場にして引っ越し、妻は字を拾い、ぼくは機械を回して僑文社を始めました。

754

▼僑文社からケイビーエス株式会社へ

僑文社を立ち上げて、まずハングルを始めました。とにかくハングルを何とかせねばならないなど。印刷にコンピュータを利用して。東芝で日本語のワープロができたんですよ。それが当時、七〇〇万円でした。でも、これは素晴らしい、印刷の入力に使えるなど思ったわけ。というのが、ぼくは文字を拾うのが苦手でしたから、楽に字を探せる方法、できればキーを利用して文字を探せる方法があればと思っていました。ワープロができたと聞いたとき、「これはすごい。文字の入力にワープロを使おうじゃないか」と考えました。「日本語ができれば、韓国語もできるに違いない」と。それで電算写植^{でんさんしゃちつ}といって、印刷の文字を拾う、文字を組み合わせる、そのような機械を考え出したんですよ。発明というよりも、アイデアやね。

一九八一年に角川書店から『朝鮮語大辞典』の出版依頼があつて。これは字を一個一個手で拾っていてはできっこないと思いました。それでコンピュータを利用しようということになり、写植機メーカーのモリサワに話を持っていったら、「やってみてもいいな」ということになりました。

ちょうどそのころ、パソコンのワープロソフトで、コアハングルというのができて、それを

入力機に使うことで電算写植用変換ソフトを作りました。当時、だんだん日本も国際化していましたが、このときにはね、一九七〇年万博のパンフレットは英語と日本語しかなかった。多言語になってなくてね。一九八二年には韓国よりも早く、ハングル電算写植の入力機が完成して実用化に成功したわけ。

日本はだんだん国際化していきました。花博（国際花と緑の博覧会。一九九〇年）からいろんな言葉を使うようになってきて。今では多言語が一般化されて、いろいろな案内が多言語を使うようになりました。そのようなお客さんからのニーズがあり、「韓国語ができるんなら、中国語もできるんじゃないか」というお客さんからの要望があつて、「そうやな。やろう」としてやったわけね。

一九八九年に会社名をケイビーエス株式会社に変えました。それは僑文社の頭文字を取って作ったわけよ。一九九四年には、ぼくらがやっている多言語組版システムが「日本経済新聞」「朝日新聞」の記事にとりあげられましたよ。

▼「幻のフィルム」との出会い

建国の友達とか同級生は深い繋^{つな}がりがあつて、ずっと続いてきました。子ども三人皆、建国に行かせました。また印刷屋してずっと建国学校の印刷をほとんど引き受けたから。証明証とか卒業証書とかの印刷物や文集とか記念誌も引き受けていて、妻も読んでいるから自ずから内

容がわかる。でもやっぱり子どもが通うようになってから再び関わるようになりました。小学校に入ったら小学校のPTA会長になったり。今は学校の理事や、校友会の役員もしています。

「幻のフィルム」との出合いはね、偶然だった。本当に、偶然。二〇〇五年に、二〇〇六年の建国創立六〇周年のために記念誌委員会を作ってね、委員長になったんですよ。委員長になったから、原稿を集めたり資料を集めたりするわけだね。ある日、校友会の事務室に行ったら、机の上にフィルムの入った段ボール箱があつて、そのなかのフィルム缶に「一九四六年 建国生の日」「一九四七年 二周年八・一五記念誌式典」というメモがあり、「ありや、これはすごい」と思って、これを記念誌の参考にと調べ出したんです。

当初、建国創立六〇周年記念誌は校友会の機関紙「白友」のような簡単なものを作ろうとしたんですが、幻のフィルムによって考えが一変して、やっぱり六〇周年は節目だし、建国の歩みをきっちり記録するべきだと思いました。ぼくが持って帰った箱の中身は、昔の写真とともに、一六ミリのフィルム七本と八ミリフィルム八本でした。一六ミリは一時間、八ミリも合わせると全部で三時間ほどの長さに相当します。九月二九日、フィルムをデジタル変換業者に頼んで、その内容を見て「これはすごい！」と思いました。

フィルムに映っていたのは戦争直後、白頭学院初代理事長の曹圭訓（チヨ・ギョフン）さんが手がけていた播磨護謨合資会社や紡績工場などの様子でした。ここで働いていたのは皆同胞で、徴用で日本に連れて来られ、解放直後、行き場を失った朝鮮人約二〇〇〇人を曹理事長が

引き受けたと聞いています。建国学校の草創期を記録したのもありました。

原版の内容はこんなんです。まず、一六ミリフィルムの中身から。

一本目は「建国生の日」。ここでは天王寺から阪和線に乗って、杉本町駅で降りる学生の風景から授業風景、運動場を整備する姿が映っていて、最後には杉本町駅から帰るストーリーになっています。

二本目は「解放二周年記念行事 第一回朝鮮陸上競技（建中）」となっていて、一九四七年八月一五日の第二回解放記念式典が大阪中之島中央公会堂で行われた様子や朝連（在日本朝鮮人連盟）の主催で建国中学をはじめ、朝鮮中学などが中百舌鳥運動場で行われた体育祭の模様でした。

三本目は「朝鮮建国中学校第三回秋期体育大会 第二回文芸祭 一九四八年二月一日」。

四本目は播磨工場で働く風景、ゴム工場で働く様子です。ゴムだけではなく、白頭レコード、紡績や薬品事務所の風景と白頭学院を創設した白頭同志会の会議の様子が映っていました。

次の五本目から七本目の最後までは、「第二回招待陸上競技大会 一九四七年二月二十八日」があつて、ここに市岡運動場で行われた模様やぼくが中学高校卒業するまでに学んだ木造校舎、船や播磨工業所の運動場でのサッカー試合。それには李慶泰（イ・ギョンテ）初代校長や朴燦時（パク・チャンシ）先生が映っています。白頭同志会の青年だらうか、祖国解放を喜び、隠していた太極旗を振ってバンザイを叫ぶ場面や、日の丸をおろして太極旗を掲げる場面もあり

ました。一九五六年体育祭の模様、そして最後は一九五七年四月二日、朴哲（パク・チヨル）先生の葬式の模様でした。

八ミリフィルムの中身は、一六ミリフィルムからあとの時期のもので、四〇周年記念式典や御堂筋パレードの模様。このときは一九八八年ソウル・オリンピックのPRのため建国生が多数出ました。林間学舎のプールで泳ぐ場面、建国祭の映像、第一八回文芸祭、金剛山雪の中の登山、高校入試の様子、一三期卒業式の風景、一九七八年十二月二七日の木造校舎を中心に撮影した映像や、第二七回校内音楽会、一九六三年一八回体育祭と文芸祭の様子などが記録されています。

以上が「幻のフィルム」の中身です。ぼくはこれらの記録映像を建国生だけではなく、在日同胞、日本の人々、また本国の人たちにも見せるようにしたかった。そのために理事会にいつてドキュメンタリー映画を製作するようになりました。

▼ドキュメンタリー映画の誕生

まず作業としては、状態は綺麗だけど音はまったくないし、中身がわからないから、内容の聞き取り調査をしたわけ。何分何秒まで刻みながら、細かく場面を分析してやっていく作業は校友会の人と一緒にやったけど、結局皆に見せるためには編集せねばならないと思って、知合いの日本の人に頼んで、一緒に作業しました。

登場人物の名前や学生の名前は、先輩たちに映像を見せたら、「わたしや」というから、その度に記入して。このときの校友会の会長がすごく協力してくれて。インタビューをするためには、あちこち行かなければならない。東京へ行ったり、東北、岩手の先輩を訪ねて行ったり、北海道も行ってきました。その経費を全部この先輩が協力してくれました。

フィルムの編集が終わってから今の学校の授業風景とか、学校の模様とかを撮影して、それを編集して作ることにしました。「過去、現在、未来」というテーマを立てて、テーマに則って作っていきました。

これを製作しながら一番苦労したのは、三〇分の映画を作るなど初めに何も決まっておらず、六〇周年記念式のプログラムを決めるときに、時間が三〇分しかないといわれて三〇分になったんです。三〇分という限られた時間の中で表現することが難しかった。

完成した映画も自分としては上出来だと思うけど、今見たら、これも出した方が良かったんじゃないかな、あれも出した方が良かったんじゃないかなど、いろいろ思いが走るね。九月に見つけて、翌年の五月三〇日上映まで、九ヶ月間、ぼくは朝から晩まで、何回も見たり、映画のことはばかり考えて過しました。記念式典で上映されると、皆とても感動して、多くの人々が「これは良かったな」といつてくれました。

この幻のフィルムのことは日本や韓国の多くのメディアに取り上げられたけど、おそらくその理由は、終戦後いち早く在日同胞の民族教育のために開校した建国の姿を伝える記録フ

フィルムが、建国だけではなく、在日社会、広くは日本社会、韓国社会にとっても貴重な歴史の財産だったからだと考えられますね。そして、この「幻のフィルム」をできるだけ多くの人に見てもらいたいと思ってダイジェスト版ですが、ネットで見られるように載せました (<http://www.inbong.com/2007/kenkoku/>)。

▼今後の夢

今後、できたら民族教育についてのロングバージョンを作りたい。今回は建国六〇周年記念事業として製作し、DVDは記念誌に挿入して配った。ときどき上映会をやったら、全然知らなかったという人が多いね。できれば日本人にも韓国人にも見せたいね。そのためにはもっと一般化して見せられるようなものになりたい。九〇分のものにして、できればDVDに作って販売できるようにしたらいいなと思っています。

在日、まず建国やね。あとは韓国系の学校、京都や東京にもあるし。朝総連の学校も取材したい。それから日本の学校も。それと、中国の延辺朝鮮族自治州にある民族学校やロシアにある高麗人学校も取材したいな。そのような学校は、やっぱり記録を残しておくべきじゃないかな。

それで今は、映像表現をどのようにすればいいとか考えながら勉強しています。映画監督に会ったり、撮影現場にも行ってるし。そして、ほかの夢はね。足が動く間にもっと多くのものを見たい。そしてもっと撮りたい。何でも撮りたい。

在日韓国・朝鮮人の足跡

高賛侑

本書は、植民地時代から南北分断時代にいたる民族受難の歴史を異国で生き抜いてきた在日韓国・朝鮮人一世の体験を記録したものである。彼らの足跡に対する理解を深めるために、在日史の節目となる主な出来事を列記してみたい。

一九一〇年、朝鮮は日本による韓国併合のために植民地とされた。膨大な朝鮮人が生きる糧を求めて、あるいは強制連行・徴用等によって日本に渡った。四五年の第二次世界大戦終結時に日本にいた朝鮮人は二百数十万人にのぼる。

祖国解放を迎えた朝鮮人は四五年一〇月に在日本朝鮮人連盟(朝連)を結成した。朝連はすみやかな帰国のための活動を進めるとともに、全国に国語講習所を設け民族教育事業を展開した。

他方、朝連の左翼的傾向に反対する人々は四五年一二月に朝鮮建国促進青年同盟(建青)、四六年一月に新朝鮮建設同盟(建同)を発足させ、四六年一〇月には両団体を主軸とする在日本朝鮮居留民団(民団)。四八年に「在日本大韓民国居留民団」、九四年に「在日本大韓国民団」と改称)を結成した。

G H Q (連合国軍総司令部) は当初、朝鮮人を「解放民族」と見なしていたが、世界的な東

第 2 部 映像を通して見る！ 復元されたアーカイブ 朴壽南監督のまなざし



監督：朴壽南（パク・スナム）

1935 年三重県生まれ。在日朝鮮人 2 世。1958 年発生した＜小松川女子高校生殺害事件＞死刑囚の李珍宇（イ・チンウ）との往復書簡『罪と死と愛と』で在日朝鮮人差別問題を提起。1965 年より原爆被災、沖縄戦の歴史の中で、その存在すら語られてこなかった朝鮮人犠牲者の実態を掘り起こし、一貫して日本の植民地支配の責任を問い続けてきた。1986 年コリアン被爆者の実相を描いた『もうひとつのヒロシマ』で監督デビュー。その後、沖縄の戦場に連行された朝鮮人軍属と「慰安婦」の実態を追跡し、沖縄・韓国から証言を集めた 1991 年『アリランのうたーオキナワからの証言』を発表。この自主上映活動は、1990 年代、従軍慰安婦問題を知らせ、日本の責任を問う市民運動として全国に広がりをもせた。2012 年、沖縄戦の玉砕を生き残った住民と朝鮮人慰安婦・軍属を描いた『ぬちがふう(命果報)-玉砕場からの証言-』を発表。2012 年あいち女性国際映画祭、2013 年山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映。2014 年には韓国釜山平和映画祭で大賞を受賞。視覚障害と 2 年間大病による後遺症を克服し、2016 年 6 月、最新作『沈黙』がソウル国際女性映画祭＜戦争と慰安婦＞セクションにて上映された。

<主な著書>

『罪と死と愛と』（63 年）三一書房

『李珍宇全書簡集』（79 年）新人物往来社

『朝鮮・ヒロシマ・半日本人ーわたしの旅の記録』（73 年）三省堂

『もうひとつのヒロシマー朝鮮人韓国人被爆者の証言』（83 年）アリランのうた制作委員会

『アリランのうたーオキナワからの証言』（91 年）青木書店・2012 年再版 アリランのうた製作委員会



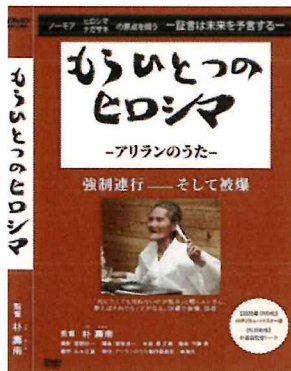
<監督作品>

『もうひとつのヒロシマーアリランのうた』（86 年）

『アリランのうたーオキナワからの証言』（91 年）

『ぬちがふう（命果報）ー玉砕場からの証言ー』（2012 年）

『沈黙ー立ち上がる慰安婦』（2017 年）



朴壽南監督の〈フィルム復元〉プロジェクト

日韓 100 人が語る歴史の証言映像。

在日 2 世バク・スナム監督が生涯をかけ記録したフィルムを復元し未来に伝えたい。



写真：1965 年、筑豊の炭鉱労働者の取材。右：朴監督

1965 年から在日朝鮮人の歴史体験を記録

1935 年に三重県で生まれた在日朝鮮人の朴監督は、1965 年から在日一世たちの歴史体験を聞き取る取材活動を始めました。日本の植民地時代にどのようにして朝鮮から日本に渡り生きてきたのか。長崎、筑豊の炭鉱で労働を強いられた同胞や、広島の実験被爆者たちの個人史を聞き取り、70 年代から著書で発表してきました。しかし一世たちが次々に亡くなっていく中で、彼らを映像に記録する必要性を痛感し、1985 年に私財をなげうち初のドキュメンタリー映画の製作を始めました。

1989 年には、沖縄戦に連行された朝鮮人「軍属」「慰安婦」の実態を明らかにするために沖縄の住民から戦争体験を聞き取り、さらに元日本兵たちを取材し撮影しました。1990 年には初めて韓国へ渡り、帰国した「軍属」や被爆者らを取材し、1991 年クランクアップまでの撮影対象は 100 名以上にのぼります。



写真：1990 年韓国ロケ。左から撮影カメラマンの犬津幸四郎、朴監督、録音チャン・サンイル

9 割のフィルムは未公開。劣化が進みデジタル化が急がれます

その後も朴監督は沖縄戦の玉砕、「慰安婦」を中心に犠牲者の声を記録しドキュメンタリー4 作品を発表してきました。

「もうひとつのヒロシマ」（1986 年）

「アリランのうたーオキナワからの証言」（1991 年）

『ぬちがふう（命果報）－玉砕場からの証言』（2012 年）

『沈黙－立ち上がる慰安婦』（2017 年）

このうち 1985 年から 91 年にかけて 16 ミリフィルムで撮影した量は、10 万フィート（約 50 時間）にのぼりますが、映画化されたのは 1 と 2 の作品で、使われたフィルムは全体の一割に及びません。

30 年以上の間、9 割の未公開フィルム・テープは経年劣化が進み、これ以上放置すると再生が不可能となる危機に直面しています。そこで私たちは 1965 年に長崎、筑豊で聞き取った在日一世たちの録音テープを含め、撮影した 16 ミリフィルムを復元（デジタル化）するプロジェクトに取り組みます。取材対象者の大半がこの世を去りました。フィルムの復元は、日本の植民地支配のもと、戦争の犠牲となった民衆を現代に生き返らせる作業です。一人一人の悲しみや言葉に耳を傾け、そして未来に継承していくために、復元し、デジタル映像としてアーカイブし活用することを目指したいと思います。そしてフィルムが復元できたならば、その映像を基に朴監督が長年構想してきたドキュメンタリー作品の完成へとステップを進めていきたいと考えております。16 ミリフィルムのデジタル化は非常に経費がかかりますが、なにとぞご理解と応援をお願いいたします。

フィルムに刻まれた人々・場所



1965 年～1985 年取材【広島・長崎・筑豊 40 名】

強制連行ーそして被爆

日本の朝鮮植民地支配の結果、広島、長崎では 7 万人もの朝鮮人が原爆被害を受け、生き残った 3 万人のうち約 7 千人が国に帰らず日本に定住を余儀なくされました。様々な経緯で広島、長崎に来て被爆した人々、広島三菱重工、長崎三菱造船所や端島三菱炭鉱（軍艦島：写真左上）に強制連行された徴用工、筑豊の炭鉱労働に従事させられた在日朝鮮人一世など 40 名の記録。真実を究明し被害者救済に尽力した広島・長崎の人々の証言も記録。



撮影地：広島原爆ドーム、朝鮮小学校、長崎県南越名海難者無縁仏之碑、1944 年三菱造船所が朝鮮人徴用工を収容するために建てた「木鉢寮」（翌年解体撤去）、「軍艦島」、中ノ島の朝鮮人火葬場、三菱長崎造船所、福岡県豊州炭鉱、古河大峰・日向墓地、ほか。



(左) 三菱が朝鮮人徴用工を収容した「木鉢寮」/ (右) 壁に残された落書き「なつかしい故郷」とハンゲルで。

1989～91 年取材【沖縄 33 名】

慰安婦・軍属の足跡を追って

朴監督は、沖縄でペ・ポンギさん（1944 年沖縄渡嘉敷島の「慰安所」へ連行）と出会い、住民から朝鮮人「慰安婦」「軍属」の記憶を掘り起こし証言を集めました。取材地は沖縄本島、渡嘉敷島、阿嘉島、座間味島、渡嘉敷島、伊江島、久米島に及びます。

同時に沖縄人の戦争・戦後体験について、阿波根昌鴻さん（伊江島住民の集団強制死、米軍による土地収用について）、上江洲トシさん（久米島住民虐殺、皇民化教育について）、住民の強制集団死の過酷な体験など 33 名以上の証言を撮影しました。



写真：沖縄ロケ。「慰安婦」について証言する大城盛俊さん（右）と朴監督（中央）

1990 年取材【韓国 36 名】

軍属、被爆者、3・1 独立運動の生存者たち

90 年代には沖縄戦に連行された軍属たち（慶尚北道一帯）を探し韓国へ撮影に入りました。韓国では、釜山・大邱・陝川・ソウル在住の被爆者たちの貧困と差別、後遺症に苦しむ暮らし、1919 年「提岩里教会虐殺事件」生存者の証言、元学徒兵、シンガポール捕虜監視兵の元軍属など、36 名の植民地時代下の苦難の歴史体験を撮影しました。



写真(左上) 韓国の被爆者を訪ねる朴監督(右上) 沖縄戦に連行された元軍属たち
(左下)朝鮮人軍属の労務監督だった G さん一家。(右下) 強制集団死を語る金城重明さん

1991 年取材【元日本兵 10 名】

沖縄の慶良間諸島には 1944 年 9 月から特攻艇の秘密基地が作られ日本兵約 3000 名が駐留しました。座間味 陸軍戦隊長や特攻隊員ら 10 名の元日本兵が戦時中の「慰安婦」「軍属」についてなど語る貴重な証言です。



儀同保（阿嘉島・元特攻隊員）

プロジェクトで目指すこと

全ての 16 ミリフィルムとテープをデジタル化するには、非常に経費がかかります。そのため本プロジェクトでは全体量の一部の劣化の激しい古いフィルム・テープを早期にデジタル化することを目ざして目標金額を設定しました。

1965～1985 年取材【広島・長崎・筑豊 40 名】映像・音声のデジタル化から開始します。



ワークフロー

【ポジ・フィルム点検】当時映画化のために仮編集をした＜ポジ・フィルム＞を別のメディアに変換し内容や劣化状況を確認。現在進めています。

【ネガ・フィルムのデジタル化】フィルム、音声の修復・デジタル化専門会社に順次デジタル化を依頼します。フィルムは 30 年以上が経ち、カビの発生やテープの密着が出ています。「ビネガーシンドローム」がみられるものもあり修繕を加え HD スキャニングによるデジタル化をします。

【音声】当時撮影方法は、映像は 16 ミリフィルムに、音声は 6 ミリテープに別々に録音されました。劣化したテープは修繕を加えデータ変換をします。

依頼する量によりますが、映像・音声のデジタル化は 2 ヶ月から 6 ヶ月以上を要します。

【映像と音の編集】業者によるデジタル化が完了した後は、製作委員会が編集作業にとりくみます。デジタル化された映像と音声はバラバラなので、これをパソコンの編集ソフトで同期させ、映像に音あわせて入れていきます。

【アーカイブ】映像と音声が一つに復元された後、朴監督の監修のもと整理し再構成の編集を行います。音声は日本語・朝鮮語が混ざっているために翻訳しテキスト化します。復元された内容を報告書にまとめ、映像・音声はアーカイブとして保存し活用します。

【映画化】朴監督はデジタル化された映像を基に映画化を企画しています。多くの皆様に公開できるよう、本プロジェクトで一つでも多くのフィルム・テープをデジタル化したいと考えています。



監督：朴壽南（パク・スナム）

1935 年：三重県生まれ。在日朝鮮人 2 世。

1963 年：＜小松川女子高校生殺害事件＞死刑囚の李珍宇（イ・チンウ）との往復書簡『罪と死と愛と』を刊行し在日朝鮮人差別問題を提起。

1986 年：朝鮮人被爆者の実相を描いた『もうひとつのヒロシマ』で監督デビュー。

1991 年：沖縄戦に連行された朝鮮人軍属と「慰安婦」の実態を追跡し『アランのうたーオキナワからの証言』を発表。

2012 年：沖縄戦の住民の玉砕と朝鮮人軍属と「慰安婦」を描いた『ぬちがふう（命果報）ー玉砕場からの証言』公開。

2017 年：『沈黙ー立ち上がる慰安婦』公開。

◇プロジェクト進行：朴麻衣（パク・マイ）『ぬちがふう（命果報）ー玉砕場からの証言』(2012 年) 助監督。『沈黙ー立ち上がる慰安婦』(2017 年) プロデューサー。アランのうた製作委員会



◇技術協力：安井喜雄（神戸映画資料館館長）

『ぬちがふう（命果報）ー玉砕場からの証言』（2012 年）コーディネーター。『沈黙ー立ち上がる慰安婦』（2017 年）協力。本プロジェクトではフィルムの保管、試写、点検、テレシネ等、多岐にわたる技術協力。

フィルム 10 万フィート（約 50 時間分）のデジタル化を目指し引き続きご支援を募っています。ご協力をよろしくお願いいたします。
※通信欄に「フィルム復元」と一言ご記入をお願い致します。

ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番：029 預金種目：当座
店名：〇二九 店(ゼロ ニ キュウ店) 口座番号：0056091
アランのうた製作委員会

※この資料はプロデューサー朴麻衣さんの了承を得て朴壽南監督のホームページ、朴壽南監督の＜フィルム復元＞クラウドファンディングのページから作成いたしました。

朝鮮人の受難記録を後世に

映画作家・朴さんのフィルム50時間分

日本の植民地支配による朝鮮人の受難の歴史に半世紀以上、光を当ててきた人がいる。在日朝鮮人2世の映画作家、朴寿南さん(85)＝茅ヶ崎市在住。同胞の沖縄戦での犠牲、広島・長崎での原爆被爆、元慰安婦たちの「恨」……。朴さんが16ミリフィルムに収めた関係者の証言を後世に残そうと、デジタル化が進められている。

寄付募りデジタル化

横浜市戸塚区で11月27日、朴さんの初監督作品「もうひとつのヒロシマ」もろいとのヒロシマ」アランのうた(1988年、38分)の上映会があった。作品の中で、在日・在韓の被爆者16人が体験を語る。日本の軍需産業の労働力として朝鮮半島から徴用されるなどした人たちが、戦後も貧困や原爆の後遺症に苦しむ姿が映し出された。

上映後に登壇した朴さんは、映画の公開当時、市民による上映会が全国約300カ所に広がったことを紹介。だが、1世が次々と亡くなる中で証言を映像で残す決意をし、85年に映画の製作を開始。茅ヶ崎市内で経営していた喫茶店の営業権を売ったり1千万円を超す借金をしたりして、翌年、この作品を完成させた。



長崎市沖の「軍艦島」(端島)を取材で訪れた朴寿南さん＝1985年、朴麻衣さん提供



「もうひとつのヒロシマ」アランのうた」の上映会で登壇した朴寿南さん(右)と朴麻衣さん。11月27日、横浜市戸塚区

朴 寿 南

「もうひとつのヒロシマ」アランのうた」の上映会で登壇した朴寿南さん(右)と朴麻衣さん。11月27日、横浜市戸塚区

85、91年に関係者の証言などを記録した16ミリフィルムは、10万7千(約50時間分)に上る。その9割以上は未公開だが、経年劣化が進み、再生が不可能な状態が近づいている。そこで、朴さんや支援者でつくる「アランのうた」製作委員会＝は、デジタル化による保存を企画。昨年実施したクラウドファンディングには468人から569万円が寄せられ、目標の560万円を達成した。

89年には沖縄県に移住し、沖縄戦での朝鮮人軍属や慰安婦の犠牲を追った。生まれたのが、2作目の映画「アランのうた」(91年、100分)だ。

新作完成めざす

現在、傷みの激しいフィ

映画「家なき天使 (집없는 천사)」について

2021 年 11 月 14 日 水野直樹

あらすじ

ミョンジャ (キム・シンジェ) とヨンギル (イ・サンハ) 姉弟は、幼い頃に浮浪者に売られ、物乞いをして暮らしていた。ある日、ヨンギルは浮浪者たちから逃げて、孤児たちと暮らす。孤児にいじめられるヨンギルを見たパン・ソンビン (キム・イレ) は、ヨンギルを家に連れていく。彼の家には4、5人の孤児が共に過ごしていた。孤児のための事業を構想していたソンビンは、義理の兄で医師のアン・インギユ (カン・ホンシク) の助けを得て土地を手に入れ、^{ヒャンリンウォン}香隣園と名づけて本格的に孤児院事業を始める。一方、インギユは偶然に出会ったミョンジャを浮浪者たちから救い出し、自分の元で看護師として働かせる。

香隣園の子どもたちのうち、ヨンバルとファサムは生活に不満を抱いて脱出を試みるが、これを止めたヨンギルが氾濫した川に落ち、瀕死の状態に陥る。ヨンバルはヨンギルを治療するために川を渡り、インギユと看護師のミョンジャを香隣園へ連れてくる。ついに姉弟の感動的な再会が叶い、ヨンギルは一命を取り止める。しかし、ヨンギルとミョンジャを追っていた浮浪者たちが香隣園へ現れる。香隣園にいた全員が力を合わせて浮浪者を追い出し、日章旗の下に集まって皇国臣民として忠誠を尽くすことを誓う。

韓国映像資料院編、桑畑
優香翻訳『韓国映画 100
選』(CUON, 2019 年) より



日本「内地」での上映ポスター、リーフレット

1 映画史上の位置

① フィルムの発見

2004-06 年、韓国映像資料院が北京の中国電影資料院で 1930-40 年代朝鮮で製作された 8 本の劇映画を発掘。DVD にして研究者らに提供。朝鮮・韓国映画史研究に一大画期をもたらす。

「軍用列車」(1938 年)、「漁火」(1939 年)、「志願兵」(1941 年)、「家なき天使」(1941 年)、「迷夢」(1936 年)、「半島の春」(1941 年)、「朝鮮海峡」(1943 年)、「兵隊さん」(1944 年) 2014 年にも「授業料」(1940 年)を発掘。

植民地期に製作された朝鮮映画 150 本余りのうち、15 本のフィルムが現存

② 崔寅奎監督



右の略歴のうち、「平安北道延辺生まれ」は「平安北道寧辺生まれ」の間違い

崔寅奎(チェ・インギユ)一九一一年? 映画監督。平安北道延辺生まれ。平壤商業学校を二年で中退して故郷に帰り、自動車運転を習得した。渡日して運転助手をしながら、京都の撮影所に入所しようとしたが果たせず、一九二九ごろに帰国した。兄の崔完奎と「高麗映画社」を設立した。新義州の鉄工会社のほか、系列の映画館で映写技師として勤務し、金信哉と結婚した。一九三七年ごろ、京城に行き、安夕影監督『沈清』(一九三七)の録音技師・李弼雨の助手になった。尹逢春監督『図生録』(一九三八)でも録音を担当した。この映画を製作した天一映画社で、監督デビュー作『国境』(一九三九)を演出した。李創用の高麗映画協会に入り、『授業料』(一九四〇)『家なき天使』(一九四一)を監督した。国策会社「朝鮮映画製作」では、今井正監督『望楼の決死隊』(一九四三)に演出助手として参加したほか、『太陽の子供たち』(一九四四)『愛と誓ひ』(一九四五)を監督した。解放後は兄・完奎の製作で『自由万歳』(一九四六)『独立前夜』(一九四八)『罪なき罪人』(同)を監督した。朝鮮戦争の際、北朝鮮に拉致され、消息不明になった。

(下川正晴『日本統治下の朝鮮シネマ群像』弦書房、2019 年)

崔寅奎映画のメッセージ

「授業料」の栄達

授業料にするお金を借りるため遠くの親戚の家まで歩いていく

「家なき天使」の明子

「勉強して医者になるわ」

「望楼の決死隊」(東宝、今井正監督)の英淑
医者になるため京城の専門学校で学ぶ

「朝鮮の貧しい子ども、女性も勉強すれば立派な人間(国民、皇国臣民)になれる」



明子↑ 英淑⇒

女優・金信哉

(崔寅奎監督の妻)



2 検閲と上映

① 朝鮮での検閲と上映

1941年1月29日 京城宝塚劇場で試写会 朝鮮軍報道部の「推奨」

1月27日 学務局の「検閲」で「非一般用映画」(14歳以下の観覧禁止)に指定
学務局社会教育課長桂琬淳の説明

キリスト教的な匂いがあるからではない

「浮浪児が靴を盗むところがあるが、あの一点だけが非一般になった理由です。〔中略〕この『家なき天使』は立派な作品で本来なら一般映画として認定すべきだったのを、ただその盗みの一点だけで涙を嚙んで非一般にしたのです、誤解のないやうに願ひます」

(『京城日報』1941年2月13日『『家なき天使』と社会問題(3)』)

2月8日 京城府民館で試写合評会

2月19日 京城寶塚劇場で封切(特別有料試写会)



『京城日報』1941年2月19日



『毎日新報』1941年2月19日

③ 「内地」での検閲と上映

1941 年 7 月 17 日 内務省による検閲を通過

9 月 21 日 東京で試写会、文部省の推薦

9 月 22 日 内務省が再検閲、フィルムの約 1 割を削除、「非一般用映画」とする理由を明らかにせず（朝鮮語、浮浪児の存在、キリスト教などが理由と推測）

10 月 2 日 - 6 日 東京のいくつかの劇場で改訂版が封切

「文部省推薦」は取り消し、「朝鮮軍報道部推奨」は残る

愛知、福岡では上映禁止

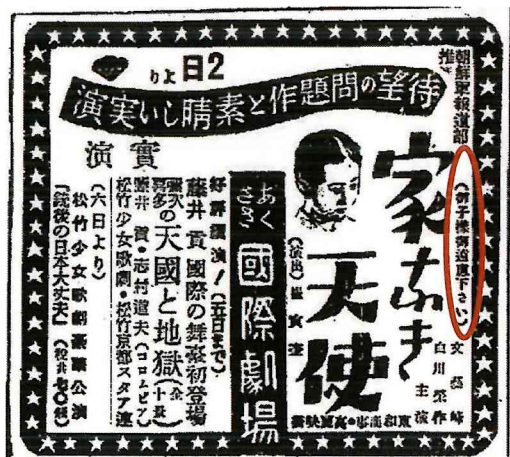
その後、「内地」協和会、満洲などで朝鮮人向けに上映（?）



『読売新聞』1941 年 9 月 27 日夕刊



『朝日新聞』1941 年 9 月 30 日朝刊



『朝日新聞』1941 年 10 月 2 日朝刊



『読売新聞』1941 年 10 月 2 日夕刊

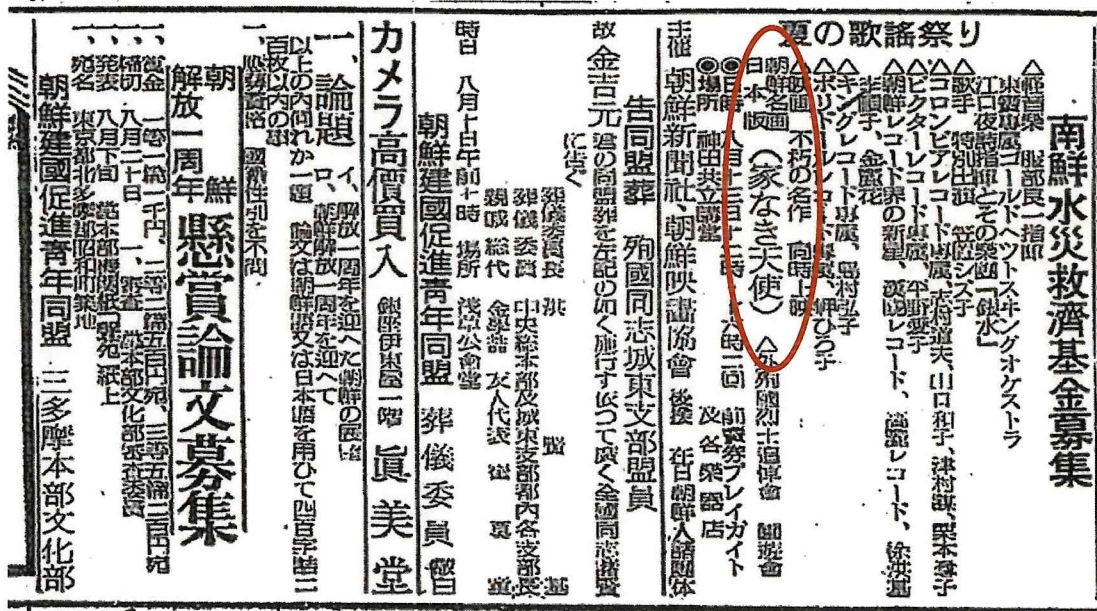
1947年にソウル、釜山などで上映

1946 年 8 月 13 日 東京での「南鮮水災救済金募集」夏の歌謡祭（主催：朝鮮新聞社、朝鮮映画協会、後援：在日朝鮮人諸団体）
「不朽の名作 朝鮮名画日本版 家なき天使」を上映



『婦人新報』1947年12月10日

『釜山日報』 1947 年 5 月 28 日



『読売新聞』1946年8月9日朝刊

3 方洙源

1904 年、平安北道定州郡生まれ（没年不明）

① 日本での活動

方の回顧談「青年のころ苦学をするつもりで東京に飛び出したところ、思ふやうにならず〇〇方面へはしってしまった、然し、それはどうしても生きる道でないことが判り、そのころ賀川豊彦氏の『死線を越えて』を読み非常に感激してしまって一切を懺悔して伝道方に転身し、正直、愛、純潔、無私の四則を日常生活の座右銘として来ました、〔中略〕七年前に東京の深川に保育園を設けて仕事をはじめ、十八年目に今年の二月に京城に帰って来た」

（『京城日報』1940 年 6 月 21 日「香隣園訪問記（中）」）

京都で朝鮮人夜学を設立

京都は我が朝鮮同胞が 2 万名余りの多数集団地であるにもかかわらず、今日まで無産労働者のために文盲を退治してくれる教育機関が何もなく、悲惨な生活をしているのを大いに遺憾としてきたが、市内東九条では有志権五燮、鄭龍桓、方洙源の 3 名の尽力で労働夜学会を設立して、臨時に協助会講堂に 50 余名の無産児童を收容し、講師方洙源君が無報酬で献身的に努力をしている。一般朝鮮人社会では方君を称賛する声が高いという。（『東亞日報』1930 年 2 月 5 日）



朝鮮人団体別調 (12 月末) 半年報 (昭和 14 年 1 月 30 日報)

(種別) (団体名) (創立年月日) (中心人物)

民族主義系 宗教 朝鮮基督教東京福音ルーテル教会 昭和七、一、二一
二〇名 方洙源

同 朝鮮耶蘇教青年勉勵会

昭和同一二、一一、二八 一〇名 方洙源（『思想月報』（司法省）第 57 号、1939 年 3 月）

1937 年 5 月～ 東京で宗教教育と文字普及を目的とする巡回福音学校の主務として活動。

7 月 1 日 塩崎（現・江東区塩崎）の朝鮮人村落で第 4 回修了式を挙行、児童 60 名、学父兄ら 4,50 名が参加。方洙源の「絵画劇」は興味津々（『東亞日報』1936 年 7 月 14 日）

『朝鮮中央日報』1935 年 9 月 8 日「関東震災 13 周忌／東京同胞追悼会／東京 YMCA で挙行」

「去る一日午前十時から東京市神田区猿楽町の朝鮮基督教青年会館で在東京朝鮮基督教青年会と神田・深川・駒込の三基督教会連合会主催で、関東震災朝鮮人十三周忌追悼会を朴永遠氏の司会で開催し、青年会幹事尹謹氏の回想談と方洙源氏の追悼辞があったが、当日は雨天だったにもかかわらず多数の男女朝鮮人が参集して盛会となった。」



② 香隣園の設立・運営

1939 年末～40 年初め、京城で浮浪児を見て、浮浪少年寮の運営を開始
メディアでの紹介

『京城日報』1940 年 6 月 20 日 - 22 日 高岡眞子「香隣園少年寮訪問記」(3 回)
(各回見出し) 蓬髪垢面街の少年に温き手！／『彼らのアボヂ』方洙源氏
清く正しく訓育と奉仕の生活／先づ垢衣の児を銭湯へ
子を持つ親に懃心／この児らに良い職場を

京畿道社会課長、京城府時局総動員課長、国民精神総動員京城連盟専務らが視察
朝鮮総督南次郎の夫人から寄付金、上流婦人らが訪問・寄付

③ 映画化

1940 年 7 月上旬 高麗映画社が映画化を決定

製作スタッフは前作の『授業料』とほぼ同様

「半島最初のヒューマニティを強調する異色ある作品として秋のエクラン〔銀幕〕が期待されて
ゐる」(『京城日報』1940 年 7 月 11 日)

④ 文字化・書籍化

崔貞熙「孤兒의樂園 香隣園을 찾아－서울市外에 六十三名の孤兒들
을인」『三千里』1940 年 12 月号

香隣園 園長 方洙源「「집 없는 天使」의樂園 香隣園生活記」『三千里』1941 年 6 月号
方洙源著・村岡花子編『家なき天使』那珂書店、1943 年、339p.

⑤ 解放後の活動

・「自由万歳」(1946 年) 高麗映画協会・社会事業香隣園の共同製作

製作：方洙源・李創用、企画：金正革、劇務：李允熙、脚本：全昌根

監督：崔寅奎、撮影：李明雨、応援監督(演出応援)：安碩柱、李圭煥、尹逢春、安鍾和



『漢城日報』1946 年 4 月 5 日

- ・ 1950 年代まで孤児院運営などの社会福祉活動
- ・ 1969 年に世界宗教連合法皇庁を新都内（鶏龍山）に開設
キリスト教界から異端と見られるが、1978 年に方が鶏龍山を離れたため消滅
- ・ 1976 年に水上を歩ける「水鞋」（물신）と「水杖」（물지팡이）を“発明”
「물신할아버지」（水鞋じいさん）と呼ばれ、1990 年代まで奇人として知られる



『朝鮮日報』1978 年 11 月 5 日



◇물신을 신고 한강을 건너는
方洙源할아버지.

『朝鮮日報』1980 年 4 月 15 日

<紹介>

「韓国民族文化大百科」より

<https://terms.naver.com/entry.naver?docId=2458801&cid=46665&categoryId=46665>

韓国映像資料院 [Korean Film Archive]

性格：特殊法人

設立日時：1974 年 1 月 18 日(韓国フィルム保管所)、1991 年 9 月 1 日(財団法人韓国映像資料院)、2002 年 6 月 10 日(特殊法人韓国映像資料院)

設立者：映画振興公社

定義

韓国で上映された国内外の映画関連物の収集と保存を目的に設立された公共機関。

概説

1974 年、映画振興公社の付属機関として「韓国フィルム保管所」という名称でスタートしたが、国際映像資料連盟から正会員資格を獲得した 1985 年までは有名無実の組織であった。1991 年に(財)韓国映像資料院となり、2002 年から特殊法人韓国映像資料院となった。

映画フィルムやシナリオ、ポスター、スチール写真、文献、DVD、オンライン映像物など、映画と関連した資料を収集・保存する仕事をする。これと共に、現在は企画上映と図書館、韓国映画史研究などの作業も並行している。

淵源および変遷

1974 年 1 月 18 日当時、映画振興公社傘下に財団法人韓国フィルム保管所が設置され、1985 年 4 月 30 日国際映像資料連盟(FIAF)に正会員として加入した。1991 年 9 月 1 日には財団法人韓国映像資料院に名称が変更され、1994 年 1 月に映像資料保存事業に国庫補助が始まり、実質的にフィルム・アーカイブとしての業務が開始された。1996 年 7 月 1 日に国内の映画フィルム等の提出制度が施行されることにより、映像資料の漏れや紛失を防止することのできる制度が設けられた。2002 年 6 月 10 日には特殊法人化され、2006 年 2 月 2 日に韓国映画データベース KMDB サービスが開始されたことにより、映像資料のオンライン上での活用とアクセスが可能になった。

機能と役割

韓国映像資料院の役割は、次の 3 つに分けられる。第一に、映画フィルムと非フィルム資料を収集・保存し、損傷した場合はこれを復元することだ。フィルム・アーカイブの概念が国内で成立したのは 1980 年代で、したがって以前の資料の収集が困難であるだけでなく、毀損された資料の復旧にも多くの時間と努力が必要な状況である。第二に、収集・保存された

資料を国民を対象に活用する機能である。一般劇場では二度と見られないこれまでの映画の上映と映画関連資料を研究と知識創出のために開放・サービスする役割で、現在は映像図書館と「シネマテーク KOFA」という名の上映館と映画博物館が担っている。最後に、韓国映画史の研究として収集・分類された資料を体系的に整理し、研究することにより深い映画研究のための土台を築いている。

現況

2014 年 5 月現在、保存中の映画フィルムは、韓国映画 8297 本、外国映画 3279 本であり、デジタルシネマは 772 本、シナリオやコンテは 6 万 492 冊、論文や定期刊行物 1 万 5420 冊、図書 9728 冊などだ。その他、ビデオテープや DVD、ポスター（画像）、音響資料等も収集・保存されている。

意義と評価

1990 年代半ばまでは、映画フィルムを提出する義務がなかったため、それ以前の映画フィルムと資料を収集することにかかなりの困難を経験し、映画を保存しなければならない必要性に対する自覚と認識が遅れたという点も問題だった。映画は一つの文化生産物として歴史を異なる方式で叙述しているという点と、国家の文化的力量を示す指標として機能するという点で、映像資料院の役割は大きい。海外に残っている韓国映画関連資料の調査と収集は、そのような面で欠けているピースを埋める作業であるので、今後さらに韓国映像資料院の役割が期待される。

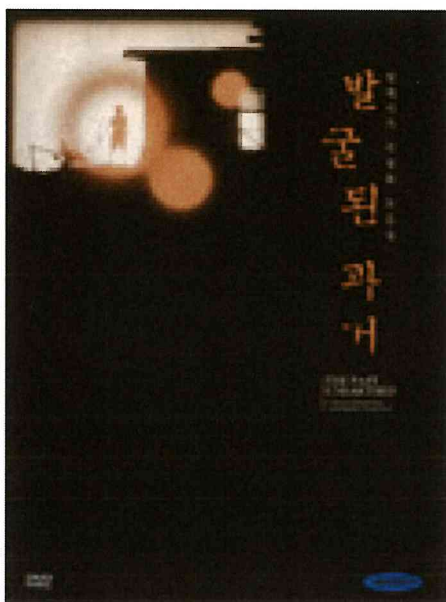
（参考文献）

「フィルム・アーカイブの収集政策研究—韓国映像資料院を中心に」（キム・ボンヨン、韓国芸術総合学校修士学位論文、2010 年）

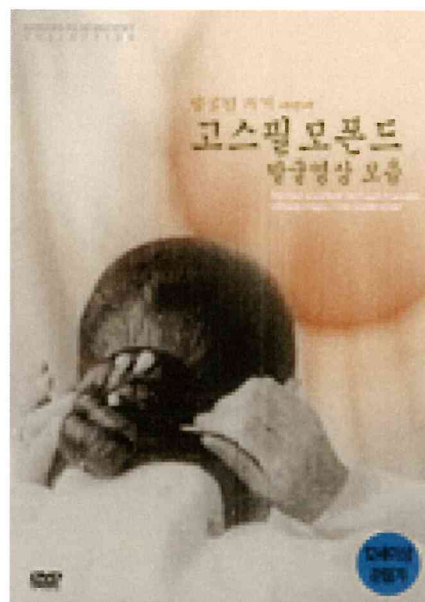


韓国映像資料院（ソウル市麻浦区）

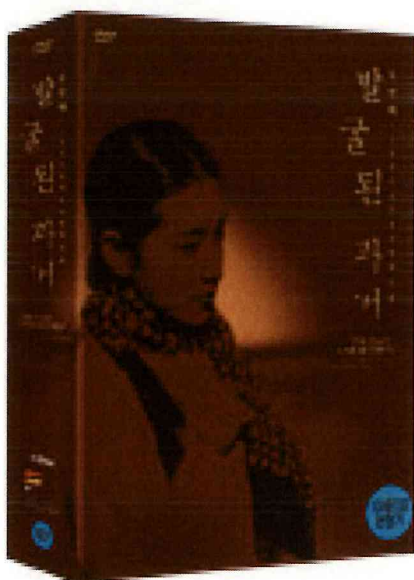
韓国映像資料院が作製した植民地期朝鮮映画の DVD



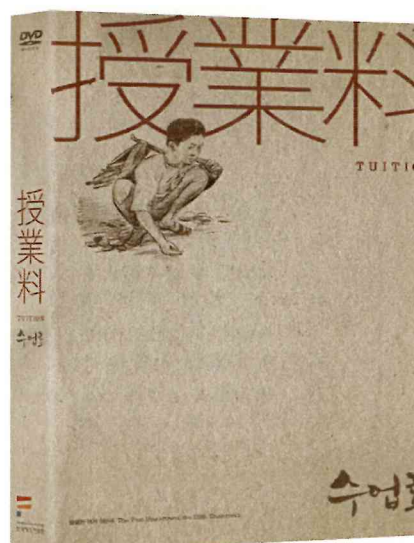
『発掘された過去：日帝時期劇映画集（1940年代）』2007年



『発掘された過去：ゴスフィルモ・フォンド発掘映像集』2009年



『発掘された過去：日帝時期劇映画集』2008年



『授業料』2015年

神戸と映画——日本映画史のはじまり

エジソンの発明した活動写真の装置、キネトスコープが日本に初めて上陸したのは神戸の地、明治 29 年（1896 年）のことでした。この年の 11 月 25 日から 12 月 1 日の 7 日間にわたり神港倶楽部で一般公開され、後にこれにちなみ 12 月 1 日が「映画の日」になりました。スクリーンに映像を投影するフランスで生まれたシネマトグラフも翌年の明治 30 年（1897 年）に神戸の相生座で公開され、たちまち人気を集めました。

神戸の最初の映画街となった新開地で幼少期から映画を浴びるように見ていた淀川長治さんは長らく映画評論家として活躍されました。1930 年代までの日本映画の多くが失われて今では見ることはできませんが、それら幻の映画について晩年まで生き生きと語りつがれた神戸の偉大な映画人のひとりです。

神戸映画資料館のあゆみ

1974 年……神戸出身の安井喜雄を含む映画好きの仲間がプラネット映画資料図書館を大阪に設立、上映や映画資料の収集を始める。

1995 年……安井が富岡邦彦とともに上映室「プラネット・プラス・ワン」を大阪・梅田に開設（現在は富岡が代表として運営）、所蔵フィルムの上映等を行う。

2006 年……阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸・新長田において、プラネット映画資料図書館の資料をもとにした映画文化施設づくりが、兵庫県・神戸市の協力を得て進展。

2007 年 3 月 25 日……神戸映画資料館開館。新長田まちづくり株式会社が、「兵庫県商店街活性化事業」を活用する事業主体となり、安井が代表をつとめる神戸プラネットが運営委託を受ける。

2009 年 4 月より……神戸プラネットが神戸映画資料館を独立採算事業として運営する。

2012 年……新長田地域で文化活動に携わる人々や神戸の大学関係者とともに神戸ドキュメンタリー映画祭実行委員会を設立（2017 年、神戸映像アーカイブ実行委員会に改組）。毎年、映画祭を開催するほか、神戸をテーマにしたプロジェクトを実施する。

2014 年 8 月……フィルムアーカイブ活動の充実を目指し、一般社団法人神戸映画保存ネットワークを設立。文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野支援事業」を受け、神戸映画資料館収蔵フィルムの網羅的な調査が実現。これにより外部機関や研究者との情報共有や共同研究を進めやすくなり、開かれたアーカイブへの大きな一歩となる。

2019 年 11 月……NPO 法人プラネット映画保存ネットワークを設立。神戸映画資料館の運営を引き継ぐ。



NPO 法人プラネット映画保存ネットワーク

設立趣旨書

1 趣 旨

フィルムアーカイブ活動（映画フィルムの収集・保存・公開）を行う日本国内の主たる機関としては、国立の「国立映画アーカイブ」、地方自治体が運営する「広島市映像文化ライブラリー」「京都府京都文化博物館」「川崎市市民ミュージアム」「福岡市総合図書館」などがあります。しかしながら、法定納入制度のような仕組みがない映画フィルムの保存と収集は、映画会社の方針や社会情勢に左右される部分が大きく課題は多く残っています。その一方で愛好家の収集により失われることをまぬがれたフィルムも多く、その価値が認められつつあります。

「神戸映画資料館」は、まさにそういう個人の収集活動から始まったものです。その時代の評価や人気にとらわれずに収集してきたことにより、忘れられていた作品や軽視されてきたジャンルの映画なども保存されてきました。それが現在、失われていたと思われていた幻の映画を多数発掘することにつながっています。

1974 年、わたしは映画好きの仲間とサークル団体「プラネット映画資料図書館」を大阪に設立しました。それから数十年にわたって多数の映画フィルム、書籍、パンフレット、ポスター、機材など、映画に関するあらゆる種類の資料を集めてきました。しかし、所蔵資料が質量ともに充実するにつれ、収蔵する場所の確保や、資料の整理が追いつかなくなっていました。そのような状態であったころ、神戸・新長田において、われわれの映画資料をもとにした文化施設づくりが、兵庫県と神戸市の協力を得て進展し、2007 年 3 月に「神戸映画資料館」が開館するに至りました。立ち上げ初期は「新長田まちづくり株式会社」が「兵庫県商店街活性化事業」を活用する事業主体となり、わたしが代表をつとめる「神戸プラネット」が運営委託を受け、その後 2009 年からは「神戸プラネット」の独立採算事業として運営をしてきました。

2014 年には「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を設立し、文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野支援事業」のもと、これまで立ち後れていたフィルムの網羅的な調査が始まりました。ようやく調査研究を行えるようになりましたが、土台である神戸映画資料館の運営は脆弱なままで、有志の個々人の献身に頼らざるを得ない状態です。近年、映像分野だけに限らず、アーカイブの重要性の認識が高まっていますが、アーカイブとは文化を未来に繋ぐためのものであり、長期的な視点と運用が不可欠です。

フィルムアーカイブという公共性の高い活動を今後も継続して行うためには NPO 法人化が最良の策であると考え、これを機に、神戸映画資料館を運営する任意団体「神戸プラネット」とその調査部門である「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を一体化したいと考えます。活動の全体を市民に知ってもらうことで理解と協力、参画を促し、柔軟性のある「市民参加型フィルムアーカイブ」をともに作っていきたいと考えています。

2019 年 9 月 10 日

特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク
設立代表者 安井喜雄

NPO 法人プラネット映画保存ネットワーク賛助会員のご案内

■年会費（お申し込み当日から1年間） 個人：5000 円 団体：50000 円

■郵便振替口座記号番号：00950-0-212194

口座名称：（特非）プラネット映画保存ネットワーク

■特典

1. 会員割引料金で映画鑑賞 *但し、主催が異なる上映会にはご利用いただけません
2. 会員証（ポイントカード）の発行
3. 上映スケジュールチラシ郵送（毎月）
4. 閲覧図書室の利用
5. 併設シネマカフェのドリンク割引

以上は神戸映画資料館シネマ倶楽部と同じ。以下は賛助会員のみの特典。

6. 閉架資料の閲覧 *要事前相談 *資料によりご希望にお応えできない場合があります
7. シアタースペース貸室ご利用料金 10%割引
8. 活動報告書（6月発行予定）贈呈、及びお名前の掲載（ご了承いただいた方のみ）

神戸映画資料館は、映画フィルム、書籍、ポスター、機材などを収集・保存・公開する施設です。収蔵するフィルムは16000本以上で、国内にある民営のフィルムアーカイブとしては最大規模です。フィルムアーカイブとは映画を未来に残すための博物館で、入場料収入などの営利事業だけで運営することはほぼ不可能です。開館から約10年は、館長が一部経費を負担するなどして維持してきましたが、この体制では「未来に残す」という重要な役割を果たすことができません。そういう事業は国や地方自治体に任せれば良いと思われるかもしれませんが、民営だからこそ残すことができた資料（かつては軽視されていた分野のものなど）がたくさんあります。一個人からはじまったこのアーカイブを支えてください。

NPO 法人設立を期に、持続可能なフィルムアーカイブを目指し、さらに鋭意努力する所存です。

ぜひ賛助会員にご入会いただきご支援くださいますようお願い申し上げます。

安井喜雄（神戸映画資料館 館長）

田中範子（神戸映画資料館支配人）

NPO 法人プラネット映画保存ネットワーク

【役員】理事長 安井 喜雄

専務理事 田中 範子／理事 山根 貞男／監事 宍田 正幸

【正会員】役員を除く

いいを じゅんこ（クラシック喜劇研究家）／板倉 史明（映画研究者／神戸大学）

上田 学（映画研究者／神戸学院大学）／金 稔万（映画作家）／釜 利子（映画作家）

橋本 英治（映画研究者／神戸芸術工科大学）／松山 ひとみ（アーキビスト／大阪中之島美術館準備室）

アクセス

ACCESS

神戸映画資料館

神戸市長田区腕塚町 5 丁目 5 番 1 アスタくにづか 1 番館北棟 2F 201

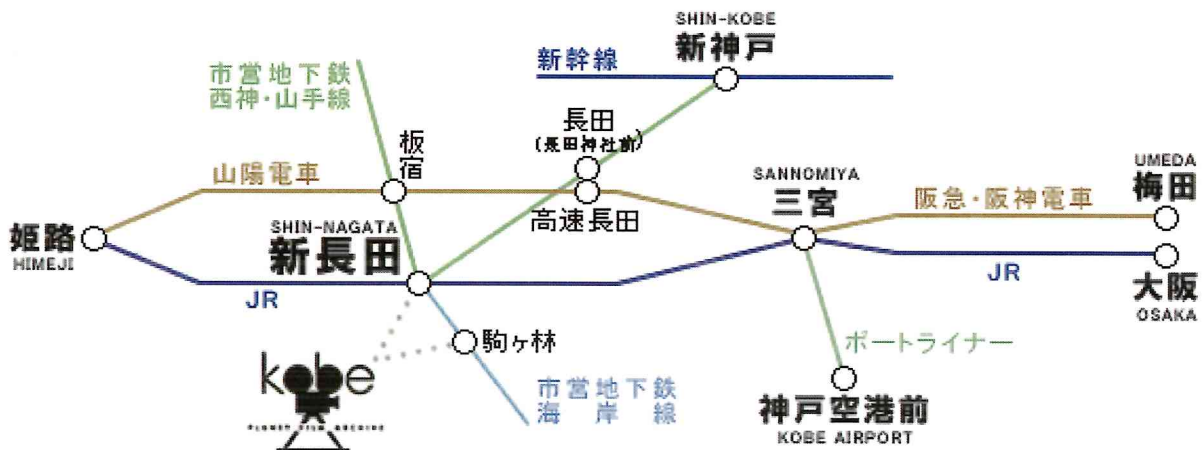
JR および地下鉄西神山手線「新長田駅」より南へ徒歩 5 分



<関西圏・神戸市内から>

【市営地下鉄・私鉄】

- (1) JR（大阪および姫路方面）からは 新長田下車、南へ徒歩 5 分
- (2) 神戸市営地下鉄西神山手線からは 新長田下車、南へ徒歩 5 分
- (3) 神戸市営地下鉄海岸線からは 駒ヶ林 下車、徒歩 5 分
- (4) 阪急・阪神電車（京都・大阪方面）からは 阪急・阪神三宮で JR 三宮に乗り換え
- (5) 山陽電車（姫路方面）からは 山陽板宿で市営地下鉄板宿に乗り換え



【神戸市営バス】

- (1) 新長田駅前または二葉町下車（17 系統）
- (2) 大橋 5 丁目下車（5 系統、80 系統、81 系統、113 系統。但、停留しない便あり）

【車/バイク】

阪神高速 3 号神戸線 湊川料金所より国道 2 号線須磨方面へ 5 分。交差点「大橋四丁目」を左折

アスタくにづか 3 番館駐車場へ（30 分以内無料、以後 10 分毎に 50 円加算。1 日最大 800 円。7～24 時開門）

【自転車】アスタくにづか駐輪場へ（無料。7～20 時開門）

<関西圏外から>

【飛行機】神戸空港前駅から ポートライナーで三宮駅へ

【新幹線】JR 新神戸駅から 市営地下鉄西神山手線で新長田駅へ

お問い合わせ

神戸映画資料館

（運営：特定非営利活動法人プラネット映画保存ネットワーク）

〒653-0036 神戸市長田区腕塚町 5 丁目 5 番 1-201 アスタくにづか 1 番館北棟 2F

tel 078-754-8039 info@kobe-eiga.net

神戸映画資料館とは

小さくても、大きなフィルムアーカイブ

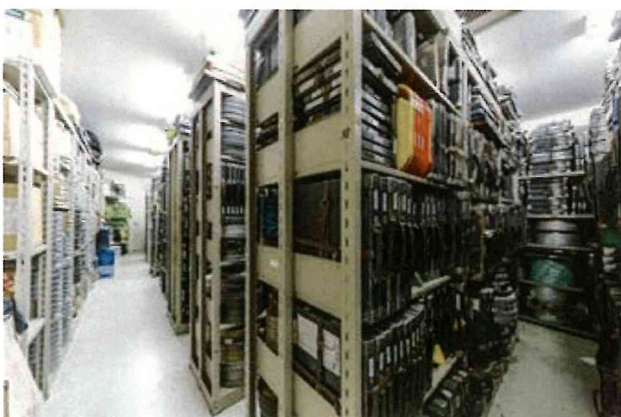
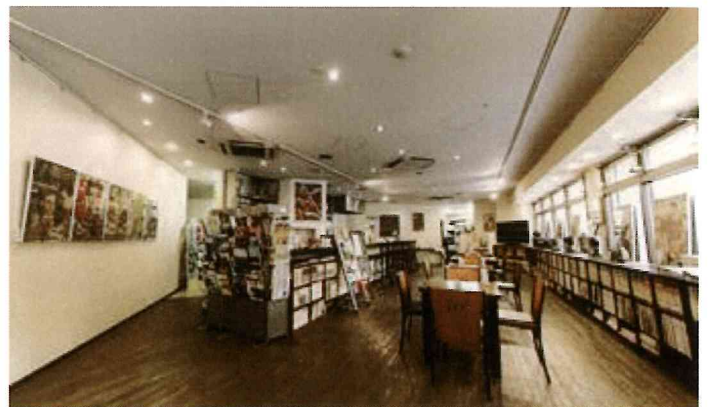
神戸映画資料館は、映画フィルム、書籍、ポスター、機材などを収集・保存・公開する施設です。収蔵するフィルムは18000本（2020年4月現在）以上で、国内にある民営の機関としては最大規模のフィルムアーカイブといえます。

館長の安井喜雄が個人ではじめた収集が、貴重なコレクションに発展しました。その時代の評価や人気にとらわれずに収集してきたことにより、忘れられていた作品や軽視されてきたジャンルの映画なども保存されてきました。それが幻の映画を多数発掘することにつながりました。

しかしながら、わたしたちはとても小さな団体で、調査がなかなかできずまだまだ未知のものが眠っていることが悩みでした。

そんな中、もとめられて資料を提供するなどしているうちに気づきました。独力ではなく、関心を持ってくださる方々とともにアーカイブ活動そのものを行うこと——むしろそれが個人のコレクションから始まった神戸映画資料館にふさわしい方法ではないだろうか。

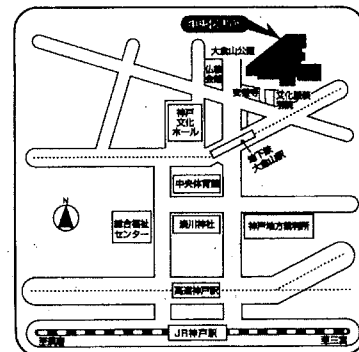
一般の映画好きのみなさんとパンフレットやポスター、チラシの整理を行ったり、専門家のみなさんと研究対象となる資料の映画史的な価値を一緒に見出す——そんな開かれたフィルムアーカイブをわたしたちは目指しています。併設のシアターは38席とこちらも小さいですが、35mmのフィルム映写機を設置する本格的な映画館です。収蔵プリントの上映や、商業的な劇場では上映されないような古典映画や先鋭的な現代映画の上映のほか、講座などのイベントを週末を中心に行っています。



青丘文庫、青丘文庫研究会のご案内 2021年11月

●1 青丘文庫は、故韓哲曦（ハン・ソクヒ）さんが1969年に個人コレクションとして朝鮮史関係の図書を収集したことから始まっています。（詳細は、●6水野直樹「青丘文庫の紹介」参照）

●2 青丘文庫は、神戸市立中央図書館、新館4階にあります。どなたでもご利用いただけます。新館3階の事務所で身分を証明するものをして入館証を受け取り、鍵を受け取って入室してください。月曜日は休館です。TEL 078-371-3351



●3 青丘文庫には、ふたつの研究会があります。

1) 朝鮮近現代史研究会（代表・水野直樹）

2) 在日朝鮮人史運動史研究会関西部会（代表・飛田雄一）

毎月第2日曜日午後2時～5時、青丘文庫で合同の研究会を開いています。年2回は神戸映画資料館での上映会、8月のお休みです。上記の方法により3階事務所で手続きをして青丘文庫隣の会議室にお越し下さい。

●4 「青丘文庫研究会月報」を原則として毎月発行しています。青丘文庫研究会会員（会費3000円／年）にお送りしています。会員には会員証を発行しています。また、メールニュースを毎月発行しています。メールニュースは無料です。飛田hida@ksyc.jpまでお申し込みください。（学生会員で紙媒体の月報不要の方には会費3000円を免除します。）

●5 在日朝鮮人史運動史研究会は、別途会費5000円を徴収しています。この会員には雑誌『在日朝鮮人史研究』（毎年10月発行、緑蔭書房刊、2400円+税）を年1回発行しています。会員はこの雑誌を3冊入手することができます。在日朝鮮人史運動史研究会は関西部会（代表・飛田雄一）と関東部会（代表・樋口雄一）があり、雑誌は二つの部会が共同で発行しています。

●6 以下、青丘文庫が韓哲曦さんのご自宅から神戸市立中央図書館に移管された当時、水野直樹が書いた紹介記事です。

神戸市立図書館報『書燈』No.261（1997年11月）

青丘文庫の紹介／水野直樹

＜青丘文庫のいわれ＞

6月3日オープンした2号館の特別コレクション室に、朝鮮史関係文献を集めた「青丘文庫」があります。利用者の1人として、このユニークな文庫を紹介したいと思います。

須磨区に住んでおられる韓哲曦（ハン・ソッキ）さんが、ご自分の研究のために朝鮮史やキリスト教関係の文献を本格的に収集し始めたのは、1969年のことです。韓さんは当時、F. A. マッケンジー著『朝鮮の自由のための闘い』（太平出版社、1973年刊）の翻訳をしておられたのですが、それに必要な朝鮮関係の参考文献が公立図書館にも大学図書館にもほとんどなかったため、ご自分で多くの本を買い集められました。それが青丘文庫の基礎になっています。

集めた文献を他の研究者・学生などにも閲覧・利用してもらおうということで、「青丘文庫」と名づけた私設図書館を開かれたのが始まりです。「青丘」というのは、「海東」「槿域」「鷄林」などと並んで朝鮮半島を表わす古くからの雅号です。名付け親は、朝鮮思想史の大家である姜在彦先生（現在花園大学教授）と聞いています。

私が朝鮮史の勉強を始めた1970年代初めには、大学で朝鮮史関係の講義はおろか、図書館に必要な文献がないためたいへん困りました。講義の方は、しばらくして姜在彦先生などが非常勤講師として来られるようになったので、指導を受けることができるようになりましたが、文献の方は収集に年月とお金が必要ですから、すぐには改善されません。

私が学んでいた京都大学には、植民地時代に朝鮮総督府が刊行した文献がかなり所蔵されていて、それを利用することはできましたが、朝鮮語の文献はまったくといっていいほどありませんでした。特に困ったのは、南北朝鮮で出版された研究書・雑誌や資料集・復刻版などが京大だけではなく、全国の大学図書館・公共図書館に入っていないことでした。国立国会図書館やアジア経済研究所などでは当時からある程度購入していましたが、学生・院生がそうたびたび東京に行くことなどできません。

青丘文庫がそのような文献を揃えていると聞いて、さっそく利用させていただくことにしました。文庫では韓さんばかりでなく朝鮮（史）研究をしている人に会うことができ、さまざまなことを教えてもらえるという利点もありました。

修士論文を書くときには、植民地時代の雑誌や新聞を見るために青丘文庫に泊らせていただいたこともあります。

<所蔵文献の特徴>

青丘文庫の特徴は、何といたっても朝鮮関係の文献を1ヵ所に集めている点にあります。歴史関係、特に近現代史の文献に力点を置いています。もちろん「李朝実録」「承政院日記」など前近代の基本文献も揃っていますが、植民地時代の新聞・雑誌、民族運動史・社会運動史関係の資料集など、南北朝鮮で発行された文献が豊富に所蔵されていることが大きな特色です。

韓国では1970年代から歴史資料の編纂・復刻が盛んになりました。当時日本でそれらを系統的に収集する図書館がありませんでした（現在でもきちんと収集している図書館は多くありません）。青丘文庫はそれらの購入に力を入れてきたので、日本でも1番といえるくらい文献が揃っています。『漢城旬報』『毎日新報』『東亜日報』などの新聞、『開闢』『朝鮮之光』などの雑誌、『朝鮮総督府官報』のような基本資料の復刻版、韓国で編纂された『独立運動史資料集』『日帝下社会運動史資料叢書』などの資料集が所蔵されています。

青丘文庫が本格的に文献収集を始めた1970年代は、日本でも朝鮮関係書籍の出版が多くなった時期に当たっています。ですから、青丘文庫は日本で刊行された文献を蓄積していることにもなります。それ以前に刊行された書籍、特に日本支配の時期に刊行された本が多いのは、古書店などを通じて購入されたからです。その中には稀覯本もあります。最近刊行された『東亜新聞』（1940年代前半に名古屋在住の朝鮮人が発行していた新聞）の復刻版は、青丘文庫所蔵のものを原本にしています。

在日朝鮮人に関する文献（書籍・パンフレットなど）が収集されているのも青丘文庫の大きな特徴です。パンフレット類はまだ市立図書館に移管されていないようですが、今後在日朝鮮人について研究しようとする場合、必要不可欠な資料になると思われます。

韓さんはキリスト者なので、朝鮮・韓国のキリスト教関係文献の収集にも力を注がれました。そのため、他の図書館には見られないキリスト教関係の文献が多数所蔵されている点も青丘文庫の特徴になっています。

私も20年以上にわたって青丘文庫を利用させていただいているので、中には私自身の思い出がひそんでいる本もあります。お金を出しても入手が困難な資料・文献は、複写・製本したものが青丘文庫にたくさん所蔵されています。これらは、私や研究会のメンバーが自分の研究のためという名目で、韓さんをお願いして複写していただいたものです。また、「これは研究にどうしても必要だ」と、韓さんに無理を言って購入していただいた高価な文献もあります。

一言でいって、朝鮮関係でわからないことがあったり、どのような文献があるかを知りたいければ、まず青丘文庫を見に行くのが早道ということになります。しかも開架で閲覧できるので、書名などがわからなくても、調べたいと思う分野の書架を見れば、関連する文献が並んでいるので、非常に便利です。移転後の市立図書館でも開架式になっているので、利用者にはたいへんありがたいことです。

<開かれた専門図書室として>

青丘文庫は、最初、国鉄（現JR）の鷹取駅から歩いて5分くらいのところにあるビルにありました。韓さんが所有するビルの5階に文庫が設けられていたのですが、ケミカルシューズの工場がいくつも入居しているビルの廊下や階段を歩くと接着剤の臭いが鼻を刺激します。息を切らせて5階まで階段を歩いて上がると、そこはまったく別の世界であるかのように、朝鮮語の本が並び、少しかび臭さもただよう青丘文庫になっていました。

このビルは、阪神大震災で延焼して今はありません。1986年に韓さんが須磨区の自宅を建て替えられ、メソンド青丘と名づけられたビルの1フロアに青丘文庫を移転されていたため、震災の被害に遭わなくてすみましたが、もし鷹取のビルにそのまま置かれていたら、貴重な文献が焼失していたかもしれません。

青丘文庫では、1979年から在日朝鮮人運動史研究会関西支部（雑誌『在日朝鮮人史研究』）、1981年から朝鮮民族運動史研究会（雑誌『朝鮮民族運動史研究』）が開かれています。関西在住の研究者・院生・学生を中心に、関心を持つ人が遠くは四国や北海道からも参加して運営されています。朝鮮研究の基盤が薄い大学などでは得られないアドバイスや情報交換の場となっています。研究会には専門の研究者だけではなく、会社勤めの人、高校の先生がたくさん参加しているのも、青丘文庫がもともと民間の開かれた私設図書館であったことを反映しています。これらの研究会は、市立図書館移転後も、図書館の会議室で月1回開かれています。

市立図書館に移転した後も、継続して文献・情報の収集に心がけることができれば、日本での朝鮮研究のセンターとして機能するのではないかと思います。

「青丘文庫が朝鮮半島と日本との架け橋になればと思ってやってきた」という韓哲曦さんのこころざしを受け継いで、青丘文庫を生かすことができるかどうかは、利用する人々と関係者の熱意と努力にかかっているといえます。

研究会の報告要旨や例会案内などを掲載した『青丘文庫月報』が発行されており、ホームページも開かれていますので、関心のある方はご覧ください（<http://ksyc.jp/sb/>）。月報申し込み・研究会参加などについては、財団法人・神戸学生青年センターの飛田雄一さんまで問い合わせてください（TEL 078-891-3018）。（京都大学人文科学研究所助教授・水野直樹）

青丘文庫研究会・連絡先

〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22 神戸学生青年センター内 飛田雄一（ひだ ゆういち）
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 <https://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp

青丘文庫研究会 月報

No.299
2021年11月3日

青丘文庫研究会 〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22 (公財)神戸学生青年センター内
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 <https://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
(※神戸学生青年センターは2021年5月に上記に移転しました)
①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>
年間購読料 3000 円。在日朝鮮人史研究関西支部会費、5000 円/年 (雑誌 3 冊を入手できます。)

<巻頭エッセイ>

市民活動を記録する「六甲アーカイブ」を、ネット上でスタートさせました？ 飛田雄一

コロナがなんとか収まりそう？だ。このままいくと、リアル (対面) の青丘文庫研究会、そして久々の忘年会/新年会も開くことができそう？ ZOOM研究会は、遠方からの参加も可能でいい面もあるが、やはり物足りない。

今年5月に、青丘文庫研究会の事務局でもある神戸学生青年センターが移転した。50年近い場所で私には思い入れいっぱいセンターで、寂しいが、新センターは阪急六甲駅から更に近いところだ。本部のウエスト100は、駅から西へ100メートル、分館のノース10は、駅から北へ10メートルだ。ぜひ、またご来場いただきたい。

当然、書棚/倉庫にあった膨大な？資料の整理が必要となった。断捨離したものもあるが、できないものも多かった。こんなものが残っていたのかという「お宝」もあった。なかでも市民団体の発行したニュース/冊子は貴重だ。資料館/博物館を作って保存/公開するのがベストだ。が、なかなかそうはいかない。

そこで、いま、堀内稔さんと進めているのが、「六甲アーカイブ」だ。堀内さんは、運動体のチラシ/ニュースも保存している。そして、それを順次、PDFファイルに変換している。今回のセンター移転で、断捨離できない貴重な資料も堀内さん宅に送り、PDFファイル化してもらっている。そして、テスト版「六甲アーカイブ」がすでにスタートしている。ほんとにテスト版でお見せするには恥ずかしいが、決意表明としてここで発表する。ホームページアドレスは、<https://ksyc.jp/rokko-archive/>。現在、メモ的だが、以下のように掲示している。実際に現在PDFファイルをはりつけているのはその一部だ。

■六甲アーカイブ■作成者：飛田雄一 (HIDA Yuichi e-mail hida@ksyc.jp) 最新改訂 2021年7月21日 ※堀内稔さん (むくげの会) の協力のもとにつくるものです。

<ホームページに冊子を貼る構想>2021年5月1日 飛田雄一

●1 学生センターホームページに、センター発行の冊子をPDFファイルで貼り付ける。(学生センターにかなしては、学生センターのホームページ <https://ksyc.jp/> 内に引っ越しするのがのぞましい?。)

震災後の被災留学生支援集の資料集/「朝鮮語を学んで」シリーズ、何冊か/センター20年誌/センター30年誌/センター40年誌/センター40年、新聞記事集/浄慶さんの冊子/成川さんの冊子/大森あいさんの冊子/中村敏夫さんの本、2冊 (以下、絶版になったということにして) /小池基信さんの本/佐治孝典さんの本/金英達、飛田雄一強制連行資料集

1990年版/八幡明彦『<未完>年表・日本と朝鮮のキリスト教100年』/その後、5冊/農塾の記録/有機農業ワークキャンプの文集ほか/食料環境セミナー/朝鮮史セミナー/現代キリスト教セミナー全記録 (そのホームページアドレスを書くだけでもいい?)

●2 むくげの会ホームページにも同じようにむくげ通信/趙世熙小品集 (以下、絶版になった?、として)/中国の朝鮮族 ※これはやりすぎ?/朝鮮・一九三〇年代研究 ※これもやりすぎ?

●3 神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会ニュース/資料集、高木さんほか作成/イラスト集、若宮さんら作成

●4 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会ニュース/中国調査団報告集/韓国調査団報告集/副読本冊子

※これは、在庫があるがよいのでは？

●5 ベ平連神戸関係

アンボ神戸／他に、あるかな？

●6 阪神教育闘争関係

50周年集会冊子「忘れまい424」／その他、集会資料集？

●7 申京煥の会

証言集1／証言集2／証言集3／9、30集会資料集／「自分の意志で帰りたい」

●8 神戸・南京をむすぶ会／各種冊子／

南京展、目録／南京展、報告集／各回のフィールドワークノート／報告書

●9 青丘文庫

「在日朝鮮人史研究の現段階」資料集／月報 ※一覧表の頁を

つくる／日韓合同集会資料集／関西、関東部会合同研究会資料集

●10 強制連行全国交流集会資料集／報告集(真相究明ネットはすでにだいたひ貼り付けている？)

名古屋／神戸西宮(10回分のうち、どのくらいあるかな？)

●11 指紋押捺関係

金成日関係／梁泰昊関係、これは、資料集がないか？、裁判資料を載せるか？／林弘城関係、ニュースがある？／兵指共ニュース(※以下の段階に目次集をいれる？)

●12 東亜日報を読む会

●あと、神戸空襲を記録する会？／神戸NGO協議会？

●●以上、アイデアをメモしました。飛田雄一

だいぶ大風呂敷を広げたようだ。先日、同志社大学の院生が学生センターを訪ねてきた。1970年代に韓国から北朝鮮への亡命を求めて日本に密航した丁勲相の研究をしているという。センターの「お宝」のなかにベ平連神戸が作ったチラシがあったし、3センチ？の太さの公判資料集もあった。利用されることは嬉しいことだ。また同級生が1980年代の指紋押捺反対運動の研究をしているという。引っ越し後のセンターに「スキャン後廃棄」のダンボールに関連資料がけっこうあった。それを送ってスキャン(PDFファイル化)してもらったことになった。これも嬉しいことだ。この「スキャン後廃棄」のダンボールがまだ4、5箱ある。これは自分でするつもりだが、のぞいてみたい方は連絡をよろしく。そして、自身でスキャンしてPDFファイルを送ってくれたら、非常に嬉しい。

『在日朝鮮人史運動史研究会』51号

2021年10月、A5、130頁、発行：緑蔭書房、2400円+税

※月報読者には、送料とも特価2160円で販売します。事前に、＜00970-0-68837 青丘文庫月報＞に送金をお願いします。

●目次●

「内鮮協定」と戦時期の渡航管理政策について——一九三〇年代末を中心に 福井 譲

大阪空襲と朝鮮人一戦中、そして戦後 塚崎昌之

戦後電源開発と朝鮮人労働者—国鉄土幌線工事を事例に— 上田文夫

日本人家庭に生まれ(韓国人)として生きた

山梨県在住女性のライフヒストリー 鮎渾 譲

《資料紹介》

鵬野義雄「内地行朝鮮人労働者の概況」 樋口雄一

＜青丘文庫研究会の記録＞

月報が2021年6月以来の発行となっていました。この間、メールニュースを発行していました。メールニュース希望の方は、飛田雄一 hida@ksyc.jp までメールをお願いします。以下、のちのちの青丘文庫研究会歴史のために記録を掲載しておきます。

＜2021年＞

- ・ 6月13日(日)、在日(休み)、近現代史(①金早雪「韓国地域福祉と感染症対策の小史」、②李恵子『済州・美しさのかなた』(李恵子訳、キンドル版)について)
- ・ 7月11日(日)、在日(午後2時～①福本拓「1980年代以降の大阪における在日朝鮮人自営業者の分布と集住地区の関係」、午後3時半～②安岡健一「ある在日コリアンのキリスト者に関するノート」)、近現代史(休み)
- ・ 8月は休み／第9回在日朝鮮人史日韓合同研究会は来年に延期しました。
- ・ 9月12日(日)、午後3時半～、在日(塚崎昌之、『吹田の戦争遺跡をめぐる』に朝鮮人をどのように記述したか—吹田と朝鮮人)、午後2時～、近現代史(姜健榮「米国アラバマ州の韓人戦争花嫁と

Don Lee 牧師) ※姜健榮さんの発表は中止、かわりにNHK「青丘文庫をたずねて」15分、19821225、
& 「ある手紙のといかけ」60分、19810614 を上映。

- ・ 10月10日(日)、午後3時半～、在日(「在日ベトナム人の農地利用と地域社会の対応一姫路の事例から」瀬戸徐映里奈)、午後2時～、近現代史、『歴史からひもとく竹島/独島領有権問題 その解決への道のり 歴史総合パートナーズ』を刊行して」坂本悠一

●青丘文庫研究会●2021年11月14日(日)午後1時～

(■11月の朝鮮近現代史研究会は休み)

青丘文庫研究会の上映会！ 第5弾！ 約1年ぶりの上映会はかつての猪飼野、大阪市生野区の在日韓国基督教会館(KCC 会館)にて開催することとなった。題して、一映像を通して見る『まだ視ぬアーカイブを可視化する！』!!! 貴重な3本のアーカイブ映像を上映する。1本目はかつての猪飼野在住の亡き高仁鳳さんが製作した「幻のフィルムでつづる建国の60年」。2本目は朴壽南監督の復元プロジェクト『日韓100人が語る歴史の証言映像』の中から復元されたアーカイブ映像の一部をダイジェスト版で。3本目は韓国映像資料院の協力により1941年製作『家なき天使』(崔寅奎監督)を上映し、水野直樹氏に解説をしていただく。

「青丘文庫」は神戸長田のケミカル産業に従事していた韓哲曦(ハン・ソッキ)が朝鮮史関係文献を集め1969年に開設したもので、1997年に神戸市立中央図書館内に再オープン。今回の上映会は、そこで定期的に行われている「青丘文庫研究会」の例会として位置づけられている。

●第1部 映像を通して見る！「幻のフィルムでつづる建国の60年」

2005年9月、白頭学院建国学校(建国)校友会の事務所の古い段ボール箱から、学校の草創期を記録した貴重な16ミリフィルム7本(1946年～1957年撮影)が発見された。フィルムには解放後の建国生の希望に満ちた表情が生き生きと映し出されていた。故高仁鳳さんは建国創立60周年(2006年)事業の一環として、この貴重なフィルムを後世に伝えていこうと、ドキュメント映画『幻のフィルムでつづる建国の60年』(30分)を製作する。

高仁鳳さんは1941年、大阪で生まれ、1947年に全羅北道裡里に帰国。1957年、日本に戻り、白頭学院建国中学校、高校卒業。プラスチック関連業界紙の仕事をしながら大阪経済大学経営学部を卒業。1968年、印刷会社僑文社を継承。1989年、ケイビーエス株式会社に改組し代表取締役、その後会長。白頭学院建国学校理事、校友会副会長を務めた。常にカメラを持ち、様々な行事・日常の出来事などを撮影し、膨大なビデオテープの記録を遺す。2012年12月12日12時、永眠。

トーク：林芳子(故高仁鳳夫人) 聞き手：石川亮太(立命館大学教授)

●第2部 映像を通して見る！復元されたアーカイブ 朴壽南監督のまなざし

「語る言葉のない沈黙の表情は映像でしか描けないんです。」文筆の人から映画の人になった朴壽南監督が30年前からフィルムに刻んだ日韓の証言者は約100名、50時間におよぶという。一昨年6月、神戸映画資料館でその一端を垣間見た。映写機が廻ると唐突に軍艦島が現れた。別撮りのために音声は無く、フィルムを回す音だけが響いた。1985年に撮られた軍艦島がスクリーンに朦朧と漂い、玄海灘に揺れていた。小船に乗り込み軍艦島に向かうのは朴壽南監督と徐正雨さん。徐正雨さんは14歳で軍艦島の海底炭鉱へ連行され長崎の三菱造船所で被爆され、強制労働や被爆による病苦に苦しみながら、2001年に急逝され鬼籍に入られた。残念ながら証言されたほとんどの人々が鬼籍に入られてしまった。

今回、特別に「軍艦島」「徴用工」「被爆者」などをテーマに復元されたアーカイブ映像の一部をダイジェスト版として上映する。

ビデオメッセージ：朴壽南監督 朴麻衣(プロデューサー)

●第3部 映像を通して見る！発掘された植民地映画「家なき天使」

韓国映像資料院は、2004年と2005年に、日本統治時代に作られた劇映画「家なき天使」など4本のフィルムを中国のフィルム・アーカイブで発掘した。「家なき天使」は当時社会問題となった浮浪児救済事業である「香隣園」の実話をもとにした作品で、京城(現：ソウル)の街に溢れる浮浪児を救おうと、ひとり牧師が孤児院で苦闘しながら子どもたちを育てる物語である。「内鮮一体」を掲げた植民地政策が進められていた当時、朝鮮映画への関心が日本「内地」で高まり、「家なき天使」も上映された(のちに事実上の上映禁止となる)。

水野直樹氏のトークでは、「家なき天使」の映画史的意味を考えるとともに、モデルとなった牧師方洙源が1930年代には京都や東京の在日基督教会で活動していたことなどの新しい事実を明らかにする。

『家なき天使』（1941年/73分/DVD上映） 提供：韓国映像資料院

トーク：水野直樹（京都大学名誉教授）

《資料代》1500円 ＊ どなたでもご参加いただけます

主催：青丘文庫研究会 神戸映画資料館 協力：韓国映像資料院

お問合せ ☎078-754-8039（神戸映画資料館）

【E-Mail】 info@kobe-eiganet（神戸映画資料館） hida@ksyc.jp（青丘文庫研究会）

場所：在日韓国基督教会館（KCC 会館5階ホール）

〒544-0032 大阪府大阪市生野区中川西2丁目6-10

■地下鉄千日前線・今里筋線「今里駅」②番出口から南へ徒歩15分

■市バス：中川西公園前

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に伴う対応について】

- ・間隔をあけてご着席ください。
- ・マスクの着用、咳エチケットへのご協力をお願いします。
- ・発熱など体調不良のある方はご来場をお控えください。
- ・ご入場前、ご退出後に会場の消毒、換気を行います。

【今後の研究会の予定】

12月12日（日）、在日（広瀬貞三「戦前の吉野川水系祖谷川の発電所工事と朝鮮人労働者」）、近現代史（未定）

<2022年>1月9日（日）、在日（藤川正夫「植民地出身公務員の取扱い―サ条約と高辻回答―」）、近現代史（未定）

2月13日（日）、在日（未定）、近現代史（上野都）

3月13日（日）、在日（未定）、近現代史（未定）

【月報の巻頭エッセイの予定】 12月号以降の原稿です。締め切りは20日です。梶居佳広、高野昭雄、李裕淑、藤川正夫、張允植、松下佳弘、三宅洋介、金早雪、高希麗、伊地知紀子、川那辺康一、廣瀬陽一、高正子、斎藤正樹、土井浩嗣、上田文夫、中川慎二、塚崎昌之、宇野田尚哉、姜健榮、佐野通夫、三宅美千代、全淑美、太田修、藤永壮、水野直樹、河かおる、本岡拓哉、梁千賀子、山根俊郎、川瀬俊治、小野容照、樋口大祐、梶居佳広、高木伸夫、長志珠絵、藤井幸之助、黒川伊織、吉川絢子、李月順、高祐二、李景珉、青野正明、呉仁濟、勝村誠、松田利彦、飛田雄一（思いつくままにリストアップしました。前倒しで原稿を書いてくださってもOKです。）

【編集後記】 今年6月以来の印刷版「月報」です。コロナのせいですが？ ■青丘文庫研究会会員の方には、本月報とともに会員証をお送りします。会員の年会費は3000円です。よろしくお願いします。これと別に在日朝鮮人史運動史研究会関西支部の会員は年会費5000円をお支払いください。雑誌3冊をお送りしています。 ■青丘文庫研究会、以前は、ふたつの研究会を別の日に開催していたこともありましたが、最近では、同じ日に開催しています。午後1時から5時まで4時間の研究会は長すぎるので、最近では、1時間半ずつです。ZOOMのときもそのようにしました。あまり長い研究会は、よくないと思っています。12月の研究会（12日、日）は、コロナがこのままの状況であれば、対面、そして忘年会を開催したいと思います。みなさん健康に留意してご活動ください。 飛田雄一 hida@ksyc.jp